



国立大学法人

豊橋技術科学大学

同窓会報



第33号 2016 豊橋技術科学大学同窓会

2016
No. **33**

同窓会会長挨拶



豊橋技科大、 創立40周年の節目に産学連携強化を!

旧第3系(電気・電子工学)1期 古野 志健 男

<(株)日本自動車部品総合研究所 専務取締役>

豊橋技術科学大学の同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動に対しましてご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。皆様、幅広い分野の第一線でグローバルにご活躍されていることと存じます。私は、第7代同窓会会長に就任致しました旧第3系1期生の古野と申します。すでに就任から丸2年目が過ぎました。その間、役員の皆様方と大学にも多大な協力を戴き、下記のように幾つかの制度改革を実施して参りました。

- ・ Web 上での名簿管理システムの構築
- ・ 同窓会会計の系を越えた一元管理化
- ・ 大学との連携強化(大学理事会との懇親会、オープンキャンパス、女性卒業生との交流)
- ・ 同窓会海外支部の設立
- ・ 同窓会運営見直し(総会の毎年開催、定期役員会の頻度 UP、交流活動助成金 UP)
- ・ 豊橋技術科学大学開学40周年記念事業準備委員会の設立

2016年度は、これらをもとに実働に移す重要な年と認識して居ります。具体的には、Web名簿システムと一元管理された会計システムの有効活用をベースに、我々同窓生間の輪をさらに広げ、また大学側との産学連携を強化することにより同窓会の皆様方も飛躍できるような活動に移行していきたいと思っております。

2016年度で最も重要なことは、我々の豊橋技術科学大学が1976年の開学から本年10月で40周年を迎えるということです。これを記念致しまして大学と同窓会の連名で「記念事業趣意書」を起草し、「世界に開かれた技術科学」をテーマに、産学連携・社会連携、学生支援の充実、機能強化に向けた重点プロジェクトの推進を3本柱として、記念事業を計画して居ります。本年10月3日には、40周年記念式典が大々的に穂の国とよはし芸術劇場プラット

で実施されますし、同窓会と致しましても下記のようなイベントを企画中です。

- ・ 同窓会の皆様方への募金協力のお願いと、その寄付金による大学の図書館改築の援助
- ・ 40周年記念講演会
- ・ 系毎の40周年記念同窓会
- ・ 在学院生対象の40周年記念アワード(同窓会長賞)

いずれに致しましても、これらの取組みを如何に実効あるものにしていくかは、我々役員と、会員皆様方のご理解と積極的なご参加・ご協力が不可欠かと存じます。是非、同窓会会員各位におかれましては記念事業趣意書の趣旨をご理解戴き、「豊橋技術科学大学開学40周年記念事業」への募金のご協力を重ねてお願い申し上げます。本年から2017年9月までの約2年間として寄附金を募って居ります。

また、この豊橋技術科学大学創立40周年を節目に、同窓生の年次や系を越えた人脈の輪を広げたり、大学の最先端研究に触れて産学連携を前向きにご検討されたりしてはどうかと思います。例えば、異業種分野にも皆様方のニーズに対する新しい技術シーズが隠れていることもございます。

是非、皆様方も進化し続けている最近の豊橋技術科学大学を一度訪問されてはいかがでしょうか。

重ねて、同窓会活動への皆様方のご理解・ご協力・ご鞭撻を深くお願いして、挨拶に代えさせていただきます。

<ご参考Webリンク>

- ・ 豊橋技術科学大学開学40周年 記念事業趣意書
<http://www.office.tut.ac.jp/ken/kaigaku40th/40th-syuisyo.pdf>
- ・ 同窓会募金活動の詳細(具体的な募金方法)
<https://www.tut.ac.jp/40th/kifu/guidance.html>

2 電気・電子情報工学系

系長より

教授 若原 昭浩

本学の卒業生・修了生の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。旧第3工学系（電気・電子工学系）から、新第2工学系（電気・電子情報工学系）に再編して6年が経ちました。この春、電気・電子情報工学系所属として初めて学部1、3年次より入学、編入してきた学生が博士前期課程修了を迎えます。また、大学全体としての事業である文部科学省スーパーグローバル大学創生事業採択に伴い、本学の海外キャンパス（マレーシア・パナマ）と連携して、今後より一層のグローバル教育（海外実務訓練・英語授業等）を、本系としても充実させていきたいと考えております。

国立大学が法人化して10年が経ちます。平成28年度より第3期中期目標が始まり、大学の特色を活かした改革がより一層求められることとなります。本系に関しては、澤田先生を筆頭とした産総研との共同研究事業である「AIST-TUT 先端センサ共同研究ラボラトリー」を学内に設置するなど、本学が得意とする企業・研究機関との共同研究をより強化するよう取り組んでおります（写真）。

さて、本年度は集積電子システム分野教授・本学副学長の石田誠先生と、機能電気システム分野教授の長尾雅行先生が、平成28年3月末日をもちまして定年を迎えられ退職されます。両先生とも、本学設立当初より長らく、教育・研究・大学運営等に多大なるご尽力頂きました。尚、最終講義は平成28年3月7日（月）にとり行われました。

一方で、材料エレクトロニクス分野の武藤浩行先生が、総合教育院教授に昇任され、所属系は変更となりました

が今後も兼務教員として教育研究活動で連携して参ります。また、平成27年度は茨城高専より山口一弘先生が高専人事交流で材料エレクトロニクス分野教授に着任され、新たに機能電気システム分野に針谷達先生が助教として着任されました。さらに、平成28年2月には情報通信システム分野准教授に竹内啓悟先生が、同3月には材料エレクトロニクス分野教授に内田裕久先生が、それぞれ着任されました。また、本系ではありませんが総合教育院に英語担当教授として着任された池松峰男先生に加え、山口先生、内田先生は本学旧3系のご出身のため、同窓生の皆様におかれましても、ご存知の方は多いと思われる。

御存知の通り、平成28年度に本学は開学40周年を迎え、記念事業を執り行うべき準備をしております。新2系からも、OBを中心とする多くの先生方が本事業の準備に取り掛かっております。同窓生の方々におかれましても、今後とも是非ご協力の程、よろしく願いいたします。



AIST-TUT 先端センサ共同研究ラボラトリーの設置

教職員紹介（平成 28 年 3 月現在）

<材料エレクトロニクス分野>

教 授：福田光雄，松田厚範，山口一弘，内田裕久

准教授：服部敏明，中村雄一，石山 武，

Lim Pang Boey*1，高木宏幸

助 教：河村 剛，石井祐也，後藤太一，加藤 亮*2

<機能電気システム分野>

教 授：長尾雅行，櫻井庸司，滝川浩史

准教授：須田善行，村上義信，稲田亮史

助 教：東城友都，針谷達

助 手：川島朋裕

技術専門職員：日比美彦

<集積電子システム分野>

教 授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明，石井 仁*3

准教授：村上裕二，河野剛士，関口寛人，岡田 浩*4

講 師：高橋一浩

助 教：秋田一平，山根啓輔，岩田達哉，赤井大輔*4

技術専門職員：飛沢健

<情報通信システム分野>

教 授：大平 孝，市川周一，上原秀幸

准教授：田村昌也，竹内啓悟

助 教：宮路祐一，藤枝直輝，坂井尚貴

*1 国際教育センター，*2 研究基盤センター，*3 テーラーメイドバトンゾーン特任，*4 エレクトロニクス先端融合研究所

波動工学研究室の近況報告

電気・電子情報工学課程 助教 坂井 尚貴

卒業生、修了生の皆様、元気に過ごしていますでしょうか。心身ともに元気に、充実した毎日を過ごしていることかと思えます。

さて、我々大平研究室は、2007年に立ち上がって以降、今年度2015年で8年目を迎えました。今年は教員2人、研究員1人、秘書1人、博士課程2人、修士学生12人、学部生5人、合せて23人になっており、かなりの大所帯になっております。さらに昨年度から田村准教授が着任され、大平研究室と田村研究室で、研究、イベントなどで多く交流しております。また、大平先生が今年度から未来ビークルシティリサーチセンターのセンター長を勤めることになり、忙しい日々を過ごしております。

大平研究室では現在、

- (1) 走行中電気自動車への給電の研究
- (2) パワーエレクトロニクス回路の研究
- (3) 非線形デバイス回路の測定法の研究
- (4) 可変指向性アンテナの研究

の4つを柱に研究を進めております。年々、共同研究、

受託研究などが増え、充実した毎日を過ごす学生が増えています。加えて、新聞やテレビなどの報道機関にも我々の研究を取り上げて頂く場面もでてきました。これも大平研究室OBの皆様の研究成果があったからこそその反響だといえます。

今年の研究室の一大イベントとして、大平先生が還暦を迎えられ、現役生、卒業生、修了生が一同に集まり還暦祝いを盛大に行いました。研究室発足から8年も立っていると多くの人数が集まり、懐かしい顔ぶれにとっても素敵な会になったかと思えます。

最後になりますが、卒業生、修了生の皆様の今後の益々の活躍を楽しみにしております。また、本研究室に遊びに来てくれることを心からお待ちしております。その際は、楽しい会話を肴に美味しいお酒でも飲みに行きましょう！



機能性材料科学研究室の近況

博士後期課程 2年 東 翔太

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場にて日々ご健勝のことと存じます。

当研究室はプロセス評価解析研究室と共同で研究を行っており、現在は松田厚範教授、武藤浩行教授、山口一弘教授、河村剛助教、Tan Wai Kian 国際教育センター特任助教、大河原まゆみ秘書、スタッフ（非常勤研究員2名、ポスドク4名）、および学生（博士後期課程4名、博士前期課程15名、学部10名）で構成されております。本年度は当研究室が旧物質工学系から電気・電子情報工学系に移行してから5年目となり、ほぼ全ての学生が電気・電子情報工学系所属となった節目の年となりました。

当研究室は、ゾル-ゲル法、メカノケミカル法、交互積層法等を用いた新規機能性材料の作製、それらの燃料電池や二次電池、太陽電池、光触媒、光学素子への応用研究を行っており、国内外での学会発表・論文発表を多数しております。上記手法により作製された材料は形状や配置が高度に制御されたナノ構造を有する特徴があり、従来の材料にはない特異的な物性を示すことから、エネルギーデバイス等への実用化を検討しております。また、

複合材料の作製と解析評価を専門分野としているプロセス評価解析研究室の学生らとも活発に知見共有や議論を行っております。

研究室の行事として、新入生歓迎会、材料エレクトロニクス分野の研究室との合同遠足、松田教授宅でのバーベキューパーティー、一泊二日の研究室旅行、OB会、忘年会、送別会などを行い、先輩と後輩、先生と学生という垣根を越えて一同の親睦を深めております。

これまでの研究室のより詳細な活動内容につきましては、ウェブサイト (<http://ion.ee.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、お時間のあるときにお目通し頂ければ幸いです。

卒業生並びに修了生の皆様方におかれましては大変ご多用のことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ち申し上げます。また、その際に、在学中や卒業、修了後の貴重なお話をお聞かせ頂ければ嬉しく思います。

末筆ながら、諸先輩方の今後の更なるご活躍と発展を心よりお祈り申し上げます。



プラズマエネルギーシステム研究室の近状報告

博士前期課程 1年 奥田 紗代

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましてはますますご活躍のことと存じます。

プラズマエネルギーシステム研究室は、2014年に田上英人助教が母校の北九州高専に異動され、後任として針谷達助教が着任し、現在、滝川浩史教授、須田善行准教授、針谷達助教の教員3名と、上田由美秘書、千葉玲子秘書、技術専門職員の日比美彦様、および学生27名（修士課程18名、学部9名）で構成されています。

本研究室は、複数の分室・グループで構成されており、現在はプラズマ・ナノマテリアル分室、エネルギーデバイスグループ、太陽エネルギー変換分室の三つで構成されています。プラズマ・ナノマテリアル分室では、プラズマを応用した研究を行っており、真空プラズマを用いたダイヤモンドライクカーボンの作製や自立膜の作製、大気圧プラズマを用いた表面処理および水処理などを行っています。エネルギーデバイスグループでは、粒子状・繊維状・ラセン状といったいろいろなカーボンナノ材料を大量に合成し、燃料電池やキャパシタなどの新しいエネルギーデバイス、ならびに新しいエレクトロニクス素子や電子放

出源などの研究開発に取り組んでいます。太陽エネルギー変換分室では、太陽をエネルギー源とするエネルギーシステムの開発やその効率的な運用法の提案を行っています。さらに、太陽エネルギーの効率利用に不可欠な気象センサの開発を手がけています。近年では、電気自動車（EV）やハイブリット車（HEV）などの低環境負荷車両の効率化や最適運用方法の提案を行っています。

研究室のイベントとしましては、毎年恒例の夏の研究室室内テニス大会を行い、メンバーの交流を深めました。研究成果や近状については研究室のウェブページ (<http://www.pes.ee.tut.ac.jp/index.html>) にて公開しておりますので、是非ご覧ください。

ご多用とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎致します。先輩方の大学在学中、卒業・終了後のお話や現在の職場の経験談など、貴重なお話を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



2015年追い出しコンパの様子

3 情報・知能工学系

学内近況報告

情報・知能工学系 系長 中内 茂樹

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成 22 年 4 月の再編によって、本学における先端技術分野のうち、情報科学・工学教育研究を担う系として情報・知能工学系が発足しました。旧情報工学系の情報システム工学分野が電気・電子情報工学系の一部として再編されたものの、旧情報工学系と旧知識情報工学系が一体となることで、情報系教育研究分野をほぼ網羅するようになりました。

再編前は旧情報工学系と旧知識情報工学系の違いが分かりにくいという声も多く聞かれ、その度に「情報工学系は通信および情報処理のための基盤技術に関する教育研究を、知識情報工学系は情報処理の基盤技術に基づく様々な分野のコンピュータ利用技術に関する教育研究を、それぞれ主眼に置いている」と説明してきました。再編によって、そうした難しい説明をしなくとも「情報・知能工学系は本学における情報科学・工学の教育研究を担っている」と明快に説明できるようになったことは、再編の大きな成果の一つです。

再編当初、旧情報工学系と旧知識情報工学系の教育研究分野をソフトマージする形で、「計算機学」「情報ネットワーク学」「メディア情報学」「知能情報学」の4つの教育研究分野としてスタートしました。その後、IoT、人工知能、クラウドコンピューティング、ロボティクスなど、情報技術の爆発的発展や現代社会における情報インフラの

重要性の高まりなど、激変する情報化社会を睨んで系内の分野再編に着手しました。平成 27 年 4 月より、教員の研究分野を計算機数理科学 (Computer & Mathematical Science)、データ情報学 (Data Informatics)、ヒューマン・ブレイン情報学 (Human & Brain Informatics)、メディア・ロボット情報学 (Media Informatics & Robotics) の4分野で構成し、IT や ICT 技術の進化に合わせてダイナミックに対応可能な組織構成としています。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。4 月から木村慧助教、大石修士助教、桂樹哲雄助教と3名の助教が着任されました。

現代は、農耕革命、産業革命の次の情報革命によって、脱工業化社会に入ったと言われていています。産業革命によって人間の肉体労働が機械に置き換わったように、今後、多くの知的労働が情報システムに置き換わるのでは、という声も聞かれます。情報・知能工学系は、情報技術を「使う」人材よりも、新たな技術を「創出する」人材の育成を担っていることは論を待ちません。

平成 25 年度に文部科学省博士課程教育リーディングプログラムの複合領域 (情報) カテゴリーで本学のプログラム「ブレイン情報アーキテクトの育成」が採択されました。今後、こうした教育プログラムとも連携しながら、情報化社会のフロンティアでリーダーとして活躍できる人材を輩出していきたいと考えています。

職員一覧及び学生現員(平成27年12月現在)

【計算機数理科学分野 (Computer & Mathematical Sciences)】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学,情報生命学
関野 秀男	教授	計算科学
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
栗田 典之	准教授	量子生物学,計算科学
後藤 仁志	准教授	計算化学,ハイパフォーマンスコンピューティング
小林良太郎	講師	計算機工学
木村 慧	助教	離散最適化,アルゴリズム
齋藤 暁	助教	数値計算,量子情報処理
原田 耕治	助教	免疫システム科学,複雑系

【データ情報学分野 (Data Informatics)】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索,データマイニング
梅村 恭司	教授	情報工学
増山 繁	教授	自然言語処理,Webマイニング,アルゴリズム工学
秋葉 友良	准教授	知能情報学
加藤 博明	講師	分子生命情報学
渡辺 一帆	講師	統計的学習理論,機械学習
相田 慎	助教	計算量理論
小林 暁雄	助教	自然言語処理,データマイニング
立間 淳司	助教	情報検索,パターン認識
吉田 光男	助教	ウェブ工学,自然言語処理
井佐原 均	教授	言語情報学 (情報メディア基盤センター 兼任)
土屋 雅稔	准教授	自然言語処理 (情報メディア基盤センター 兼任)
岡部 正幸	助教	情報検索,機械学習 (情報メディア基盤センター 兼任)

【ヒューマン・ブレイン情報学分野 (Human & Brain Informatics)】

氏名	職名	専門分野
高橋 由雅	教授	分子情報工学
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
堀川 順生	教授	神経科学,聴覚情報処理
北崎 充晃	准教授	心理物理学,認知神経学
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
桂樹 哲雄	助教	分子情報工学,情報生命学
杉本 俊二	助教	神経科学
東 広志	助教	生体信号処理
鯉田 孝和	准教授	視覚神経科学 (エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)
南 哲人	准教授	認知神経科学 (エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)

【メディア・ロボット情報学分野 (Media Informatics & Robotics)】

氏名	職名	専門分野
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア
三浦 純	教授	知能ロボティクス
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン,画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
山本 一公	准教授	音声言語情報処理
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング,システムソフトウェア
大石 修士	助教	コンピュータビジョン
神納 貴生	助教	画像信号処理
桂田 浩一	准教授	マルチモーダルインタラクション (国際交流センター 兼任)

【事務関係】

事務職員：加藤 恵子, 神谷 幸子 (C棟事務室),
宮崎 早苗, 山本 沙愛 (F棟事務室)
技術職員：宮脇 治雄, 片岡 嘉孝, 小西 和孝

【学生現員】

学部：1年次 12名, 2年次 16名, 3年次 110名, 4年次 100名
修士：1年次 114名, 2年次 99名



新任教員より

情報・知能工学系(高橋研究室) 助教 桂樹 哲雄



2015年4月1日付けで本学情報・知能工学系に助教として着任しました桂樹哲雄と申します。大阪府堺市出身です。よろしくお願いします。私は、大阪府立大学工学部海洋システム工学科(旧船舶工学科)を卒業後、

同大学院工学研究科機械系専攻の博士前期課程、同海洋システム工学専攻の博士後期課程へと進みました。その後、交通事故の後遺症のために博士後期課程を単位取得退学し、回復後に改めて奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科の博士後期課程に進学しました。そこで博士(工学)を取得し、学振特別研究員として半年間在籍した後に、こちらに着任しました。

これまでの私の研究を簡単にご紹介しますと、大阪府立大学在学中は、海の流れのシミュレーションの研究に従事しました。差分化アルゴリズムの改良、シミュレーションプログラムの構築を行う一方、その応用として大阪湾内の流れの解析等を行いました。奈良先端大では、情報生物学の分野で研究を行いました。そこでは植物生体内の化合物のシミュレーションに関する研究、混合生薬に関する研究、化合物の活性に関する研究等を行いました。また、

情報生物学的アプローチを応用し、レトルトカレーに用いられている材料の組み合わせを解析する、というようなことも行いました。

本学では、情報化学の分野で研究を行う予定です。一般に、化学構造が類似する化合物はよく似た物理的特性、生理活性をもつことが知られており、この性質を利用して、創薬や化合物の活性予測などが行われています。私は現在、化学構造と生理活性の関連性を調べることで、ある化合物の生理活性を予測する、あるいは目的の活性を持つ化合物を提案するための足掛かりとなる手法とシステムの開発を行っています。

私は、先ほど述べましたように、博士後期課程に在学中に交通事故の後遺症に悩まされました。一時全身の痛みでろくに歩くこともできなくなり、複数の医療機関を受診してみたものの有効な治療法を見つけられなかったため、寝たきりになって全てのキャリアを諦めることを覚悟しました。その後、ダメ元で様々な治療法を試すうちに、運よくカイロプラクティックによる治療で回復し、現在では全く問題なく毎日を過ごしております。あのときの絶望的状况から見るまでもなく、幸運にも私は今ここにいます。この機会を最大限に生かせるよう、研究・教育に日々精進して参る所存です。

情報・知能工学系（三浦研究室）助教 大石 修士



2015年4月1日から情報・知能工学系の助教として勤務しております大石修士と申します。

出身は福岡県で、学部から博士課程まで一貫して九州大学で学びました。昨年度に、同大学大学院システム情報科学府 倉爪 亮教授のご指導のもと博士号を取得後、本学へ着任致しました。新天地である豊橋ですが、福岡と同じく山や海に囲まれた自然豊かな場所であり、その景色や美味しい食べ物（日本酒も!）を享受しております。また、本学は高専出身の活発な学生が多く、研究活動だけでなく日常生活においても一緒に楽しく過ごしております。

修士・博士課程では、レーザスキャナを用いた3次元モデリングを専門とし、センサの特性を利用した高精度な形状計測や3次元地図生成手法の開発に取り組んでいました。現在でも、レーザスキャナだけでなくデジタルカメラ等の他のセンサを用いた3次元形状復元や、光学・幾何情報からの環境認識等の研究を行っており、人間が持つような高度な3次元知覚や認識能力をロボットに付与することで、人と共存できるロボットの開発を目指しています。

月日の経つのは早いもので、着任からもうすぐ一年が経とうとしておりますが、依然として三浦先生をはじめ教員の方々には様々な面で支えていただいております。一教員として、私も本学の教育や研究に貢献できるよう邁進していきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。

情報・知能工学系（藤戸研究室）助教 木村 慧



2015年4月1日付で情報・知能工学系に助教として着任しました木村慧と申します。学部から博士まで東京大学で学び、同大学情報理工学系研究科 数理情報学専攻（室田一雄教授研究室）にて学位を取得いたしました。

実質的に指導をして下さっていたのは、私の博士課程の途中で京都大学へと異動された牧野和久准教授です。

研究分野は組合せ最適化やアルゴリズムです。これらの分野は現実における問題解決に応用をもち、また理論的にも計算機科学と密接に関連した非常に面白い分野です。計算機を用いた問題解決や意思決定は現代社会において幅広く行われておりますが、計算機をより活用するには、より良いアルゴリズムを設計することが重要であると考えられます。良いアルゴリズム設計のためのアプローチ

として、または、アルゴリズム（計算機）の限界を知るために、問題にどのような構造があれば効率的なアルゴリズムが存在するか、または存在しないか、を明らかにする研究がこれまでに盛んに行われています。私は、特に、制約充足問題と呼ばれる広範な応用をもつ問題に対して、このような構造を明らかにする研究を行っております。

着任から9ヶ月が経ち、未だに色々な発見が多くあるものの、新たな生活にも慣れて来たように思います。これまでは教員の皆様方、事務の方々をはじめ本学の方々にはお世話になる一方でした。皆様方のおかげで、本当に良い環境に身を置けていると思っております。このような環境を形作ってきて下さった同窓会の皆様方にも感謝申し上げます。これからは、慣れてきたこともあり、まだまだ至らぬ点が多々あるとは思いますが、私自身が皆様方よっての環境の一部であることを意識し、貢献して行きたいと考えております。どうぞよろしく願い申し上げます。



研究室だより

応用数理ネットワーク研究室(梅村研)の近況

情報・知能工学系 教授 梅村 恭司

先日、梅村は豊橋に着任して20年であるので記念品をいただいた。大学は40周年ということで、ちょうどその半分の期間、研究室は活動をしていることになる。20年の間かわらないのは、なにか面白いシステムを動かして、それをテーマとするだろうとおもっている。面白いという意味はむずかしいが、役に立つが、それができるまでは役に立つかどうか分からないというのが面白いシステムの一つの条件とおもっている。別の言い方をすると、そんなことができるかと思わせるようなものと言っていいかもしれない。辞書を使わないで、重要な単語を特定したり、データから意味の同じようなものを特定したりするのは、あいかわらず、面白い。いまは、授業に関わることで、面白いことはないかと考えているうちに、板書をしていると教員が邪魔になるので、画像処理で教員を透過処理したらどうかなどと考えて、画像処理をやったりしている。自然言語処理と画像処理では共通点がないようにも思えるかかもしれないが、コンピュータが前景（人物）と後景（板書）を判定するという問題が本質であり、根っこにはおなじみがある。このようなわけで、面白いことをやっているが、なにを主たるテーマにした研究室か聞かれると答えにくいというのは20年の間かわらないことだとおもえる。

最近かわったことといえば、電子ピアノが学生居室にあり、ときどきだれかが曲を弾いているということは、いままでになかった変化といえる。少し前にピアノ楽譜の情報から作曲者を判定するというテーマも面白いので研究したので、そのときに購入したものであるが、ピアノのおかげか、雰囲気が変わっている。また、吉田光男先生が赴任してから、学生の進捗管理、ドキュメント化など正常になったのも変化している。甘いものが好きなメンバの比率が増えたせいか、お菓子がつねに学生居室の共通の場所にあるのも、数年前からの変化である。このように一見すると、研究室の変化は大きいだけれど、なにが主たるテーマであるのか分かりにくいのは、かわっていない。



分子生命情報学研究室(加藤研)の近況

情報・知能工学専攻 修士1年 山元 嵩史

卒業生、修了生の皆様、そして分子生命情報学研究室OB・OGの皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。本研究室は現在、修士7名、学部3名の合計10名で構成されており、加藤博明講師のご指導のもと、日々研究に励んでおります。

本研究室では、ポストゲノムの進展や実験技術の進歩に伴い蓄積された大量の分子構造データのデータベースを有効に活用し、生体高分子の機能解明のための分子構造情報処理アルゴリズムの開発とシステム化について研究を進めています。現在は以下のようなテーマに取り組んでおります。

- (1) 生体分子構造情報処理アルゴリズムの開発
- (2) 分子生物学データベースの構築及びその応用

研究成果は修士学生を中心に、学会に参加して発表を行っております。今年度はCBI学会や構造活性相関シンポジウムで研究成果の発表をして参りました。また、毎週の定例会として、英語の輪講や研究の進捗報告会を行い、分子生命情報学や関連技術に関する様々な情報や知識を互いに共有し合い、勉強しています。

本研究室の行事としましては、毎年新入生歓迎会や忘年会、送別会を開催しており、お互いの労に感謝し、親睦を深めております。特に、送別会は高橋研究室と合同で開催しているなど、他研究室との交流も行っております。また、夏のオープンキャンパスでは「お絵かきプログラムを作ろう!」という小学生向け体験学習教室を開催しています。6月頃からイベントに向けて準備しており大変ではあるのですが、当日子どもたちが楽しそうにプログラムを作っている姿を見ていると、ちゃんと準備してきた甲斐があったなと嬉しい気持ちになります。このイベントをきっかけに、子どもたちがプログラムに興味を持ってくれたらいいなと思っています。

毎年、多くの先輩方が研究室に立ち寄って下さいます。歓談だけでなく就職活動や研究に関する助言もしていただき、非常に参考になっています。皆様ご多忙の日々をお過ごしのことと存じますが、何かの折に豊橋近辺へ来られることがございましたら、お気軽に研究室にお立ち寄りください。先輩方の近況報告、社会人としての体験談などお話しいただければ幸いです。また、当研究室の活動状況はweb (<http://www.mbi.cs.tut.ac.jp/>)にて公開しておりますので、是非ご覧になってください。

最後になりましたが、諸先輩方のますますのご発展を心よりお祈りしております。



4 環境・生命工学系

学内近況報告

環境・生命工学系 系長 角田 範義

同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2010年4月に環境・生命工学系が発足して6年が経過し、2016年3月に博士前期課程を修了する学生のほとんどは、学部も含めた新教育カリキュラム移行後の学生となります。また、工学部および博士前期課程から2年遅れて再編が行われた博士後期課程でも、この3月に初めて修了生を送り出します。環境・生命を柱に多彩な領域をカバーする複合学科として、より一層高いレベルへと発展させるべく教育・研究活動に教職員一同努力して参りたいと存じます。

前号の同窓会報以降の教員の異動に関しては、2015年4月に新任教員として荒川優樹先生が分子機能化学分野の助教として着任されました。辻秀人先生の研究室で教育研究にご活躍されています。また、齊戸美弘先生が教授に、山田剛史先生が講師にそれぞれ昇任されました。高専-豊橋技術科学大学交流で豊田高専にて1年間教育研究活動をされていた原口直樹先生が復帰されました。一方で、環境・生命工学系を離れる先生方もおられます。

2016年3月末で、水野彰先生、平田幸夫先生のお二人が定年を迎えられます。お二人とも本学の教育・研究に長きにわたりご尽力をいただきました。

環境・生命工学系に所属する教員は、先端環境技術分野、生態工学分野、生命工学分野、分子機能化学分野の教育研究分野で引き続き活発な研究活動を行なっております。研究室一覧については、表にまとめてありますのでご参照ください。

本学は「国立大学改革強化推進事業」、「博士課程教育リーディングプログラム」、「研究大学強化促進事業」、および「スーパーグローバル大学創成支援事業」を推進しております。これら事業の詳細につきましては、本学ホームページに記載されていますので是非ご覧ください。本学は研究大学としての重要な役割を担っていくこととなりますが、今後とも環境・生命工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆になりましたが、環境・生命工学系の教職員一同、同窓生の皆さんのますますのご活躍とご健康を心よりお祈りしております。



研究室だより

反応エネルギー工学研究室のナウい話

博士前期課程 1年 泉 侃人

卒業生、修了生の皆様、お元気ですか。皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。平成 27 年度現在、当研究室は小口達夫准教授の下、博士前期課程 9 名、学部生 3 名が在籍し、日々研究生活を謳歌しております。

本研究室では、実験やコンピュータを用いた計算解析によって燃焼化学や物質生成、材料合成に関する反応についての研究を行っており、毎年国内外の学会にて研究成果の発表をしています。

実験系では、自由ピストン型急速圧縮器を用いたの自着火反応の解析や、ディーゼルエンジンを改造して製作した急速圧縮膨張反応器を用いたエンジン内での燃焼解析、流通型反応器を用いたすすをはじめとする燃焼生成物や反応素過程の解析を行っています。



計算系では、ディーゼルエンジンにおける代替燃料として期待されている芳香族炭化水素の化学反応モデルの構築や、アルミ系材料の燃焼合成解析、エンジン排気ガス再燃焼時の反応機構解析を行っています。また、実験で使用している急速圧縮器や急速圧縮膨張反応器の反応室のモデリングを行い、化学反応・流体解析の計算結果と実験によって得られたデータとの比較検討も行っています。

研究室は非常に和気あいあいとした雰囲気です。論文提出前や就職活動の時期には学生同士励まし、助けあいながら研究室生活を過ごしています。本稿執筆時は修士論文提出直前ということもあり、M2 の学生らはラップ調に合わせながら、お互いにエールを送りあっています。本学にお越しの際にはぜひお立ち寄りください。



大気・熱環境システム研究室

博士前期課程 1年 本田 京

卒業生、卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で日々活躍のことと存じます。

現在、大気・熱環境システム研究室では東海林孝幸講師、先端農業・バイオリサーチセンター所属の熊崎忠特任助教のご協力のもとに修士 5 名、学部生 2 名の計 9 名が研究に励んでいます。来年度は修士 3 名と学部生 1 名が卒業し、新たに 3 名の学部生が加わる予定です。現在行なっている研究は以下のようなテーマとなっています。

- ①「植物工場内環境予測・評価モデルの構築」この研究テーマでは、CFD を用いて植物工場内の環境を精確に予測できるモデルを構築することで、収量増に結びつく適切な環境制御法の確立に資することを目標としています。また、モデル構築のみならず植物工場内での微気象観測を通じて作物群落に対する CO₂ の適切な施用方法についても調べています。
- ②「アジア域の大都市における気温形成要因の解明」

この研究テーマでは、東南アジアの大都市を対象に土地利用の変遷からどの程度気温に影響を及ぼしているか解明することを目標にしています。

③「領域気象モデルを用いた局地豪雨予測」この研究テーマでは都市域の増加によるヒートアイランドの広域化が東海地方の降雨量および降雨分布に与える影響について領域気象モデル WRF を利用して調べることが目的としています。

一方、研究活動の他にも、新入生歓迎会、試験後の食事会、ソフトボール大会、忘年会などの行事によって親睦を深めています。また、今年度の忘年会では、昨年卒業されたOBの方をお招きしました。今後定期的に卒業生・修了生を招いた親睦会を開きたいと考えており、連絡網の作成を計画しています。卒業生・修了生の皆様におか

れましてはご多忙のことと存じますが、親睦会を開催する際にはご参加をお待ちしております。

最後になりますが、豊橋にお越しの際はぜひ研究室にお立ち寄りください。研究室一同お待ちしております。最後に卒業生・修了生の皆様の今後更なる活躍をお祈り申し上げます。



そして学生は大人になる。

環境・生命工学系/エレクトロニクス先端融合研究所 沼野 利佳

私が博士課程の学生のとときに配属されたグループは、今まさに概日リズム（24時間周期の体内リズム）の制御に関わっている可能性を大いに秘めた、クローニング（遺伝子を単離し、その塩基配列を調べる作業）されたたの遺伝子 *Period1* (*Per1*) が、本当に哺乳類の概日リズムを規定する中枢の時計遺伝子といわれるものであるかを調べんとしているところであった。時代は、まだ20世紀で、ヒトゲノム計画（人のすべての遺伝子を調べ上げるといふ世界的プロジェクト）も終わっておらず、遺伝子のクローニングと機能解析を、星の数の研究者がせめぎあって行っている時代だった。学生の身でありながら、いきなり群雄割拠のそうした中に飛び込んで、若く恐れを知らなかったこともあり、今から考えると、まさに前しか見ないようにアイマスクをした馬のような心持で走っていたような記憶がある。ボスや共同研究者、そして、当時の日本を取り巻くサイエンスの状況に恵まれ、*Per1* 遺伝子が、哺乳類の概日リズム形成に少なからず寄与していること、主に、外界の光環境を脳の中核の時計組織に伝達して、時差ぼけなどを解消するために、中枢時計の位相をリセットする機能に重要な役割を果たすことを見出した。そして、遺伝子組換え動物の技術を用いて、この遺伝子の機能をリアル

タイムでモニターすることにより、生きた動物の各組織のリズムを同時に計測できる新しい実験系を確立した。この方法により、時差ぼけというのが、外界の光環境の変化にすぐに同調できる脳の中核時計と、同調に時間を要する末梢組織の時計の脱同調した状態であると結論付けることができた。まさに、ひとつの遺伝子のクローニングが開いた道を、グループ内の複数の研究者がそれぞれの得意技をいかして突き進んだ理想の研究の形であったと思う。しかし、蜜の多い花畑には、虫がむらがるように、競争は激化し、また、勝負はまさに時の運であるということをするようになる。そして、卒業後、長期にわたるポスドクの時代に、クジラに1人で挑んでいかねばならない状況や、負けが込む状況、あふれるほどの才能の人を何人も目の当たりにして、世間の厳しさを知る大人になってゆく。そして、今の時代、本当に稀なことに自分のラボで学生さんを指導できる幸運に恵まれた。

現在の自分としては、

1. これまでの研究でオリジナルに作ってきた実験系をつかってターゲットの現象にアプローチすること
2. 工学系の強みを生かして計測系もオリジナルのものを使い、ターゲットの現象を観察すること

3. メカニズムの解明が終わったら、それを生かして現象を制御する応用科学にまで広げることをモットーにしている。

そして、実は一番大切なのが、

4. 信頼のおける研究力の高い良い友人をもつという

ことである。ポストク時代に机を並べた仲間が、

強力なコラボレーターとして多数、存在している。

豊橋技術科学大学は、工学系でまさにモットーを揃えられる恵まれた環境である。全く新しい手法の液滴エレクトロポレーション法を開発し、哺乳類細胞に遺伝子を導入して形質を変化させる新しい方法を確立できた。また、

学内で製作され先端が数 10 nm ほどの極小の電極プローブがアレイ状に搭載されたマイクロチップなど、様々な高機能のセンサーを集積したデバイスを神経活動の計測に使用できる。これらを受けて、徐々に応用科学にも転嫁しつつある。

さて、不肖の私としても、自分のふがいなさも自覚しつつ、時代が移り、以前に比べて研究環境が悪化しているように思えるサイエンスを取り巻く日本の状況下で、学生さんに、自分が経験したたくさんの研究者と有意義に過ごした瞬間を、少しでも味わってもらいたいと切に願っている。

手老研究室

博士前期課程 1年 新山 侑哉

私が博士課程卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。

さて、環境・生命工学系では 2013 年 11 月に新たに手老研究室が設立されました。手老研究室では細胞膜の基本骨格である脂質二重膜を研究対象とし、支持脂質二重膜 (supported lipid bilayer: SLB) という固液界面に形成された人工細胞膜モデルを用いて、脂質二重膜の物理学的特性等の解明を目指しています。現在、手老研究室では手老龍吾准教授の下で、研究員 1 名、博士課程 1 名、修士課程 3 名、学部生 3 名の総勢 8 名が日々研究に励んでいます。

現在、手老研究室では大きく 3 つのテーマを持ち研究を行っています。

1 つ目のテーマは、「新規材料である酸化グラフェンを用いた脂質二重膜の計測と制御」です。酸化グラフェンには単原子シート材料ならではの物性と表面構造が存在するため、その性質を利用することで脂質二重膜内のドメイン形成を制御したり、新しい測定方法を開発したりできる可能性が示唆されます。これまでの実験結果で、新たな SLB 系が確立され、今後の細胞膜研究への応用が期待されます。

2 つ目のテーマは、「SLB 系での脂質二重膜中への膜タンパク質の挿入」です。膜タンパク質は細胞内外での物

質や情報のやり取りを行っており、生命活動の維持に重要な役割を担っています。結晶構造が明らかでない膜タンパク質を SLB 中に再構成し、原子間力顕微鏡を用いることでその構造を観察できる可能性が示唆されます。この研究は、膜タンパク質の機能の解明に対する新たなアプローチ法として期待されます。

3 つ目のテーマは、「基板表面の修飾による新たな SLB 系の確立」です。SLB は固体基板の構造や性質によって、脂質二重膜の挙動が変化しますが、その基板の表面を修飾し機能化することによって脂質二重膜の挙動を制御でき、新たな SLB 系の確立に繋がると期待されます。結果、より細胞膜を模倣した SLB の作製が可能になり、細胞膜研究へ応用が期待されます。

卒業生、修了生の皆様におかれましてはご多忙のことと存じますが、豊橋にお越しの際はお気軽に本研究室にお越し頂き、皆様のご活躍をお聞かせください。末筆ながら、皆様の今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。



環境・生命工学系現員表(H28年3月現在)

本務教員				兼務教員			
コース	分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教職員名	
未来環境工学コース	先端環境技術	センシング応用研究室	田中 三郎 教授	研究基盤センター	無機材料研究室	中野 裕美 教授	
		機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授				
		静電気応用研究室	水野 彰 教授 栗田 弘史 助教 安田 八郎 助手				
		光センシング研究室	有吉 誠一郎 准教授				
		反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授				
		高電圧・プラズマ応用研究室	高島 和則 准教授				
		機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 准教授				
	生態工学	環境触媒化学・資源再生化学研究室	角田 範義 教授 大北 博宣 助手	国際交流センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授	
		無機材料物性評価・応用研究室	佐藤 裕久 助教				
		持続社会工学研究室	後藤 尚弘 准教授				
		大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師				
	生命物質工学コース	生命工学	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授 広瀬 侑 助教	健康支援センター	運動生化学研究室	佐久間 邦弘 准教授
			生物機能工学研究室	平石 明 教授	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授
			遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授			
生体機能制御工学研究室			沼野 利佳 准教授				
生体分子工学研究室			吉田 絵里 准教授				
生命科学研究室			梅影 創 講師				
水圏環境生物工学研究室			山田 剛史 講師				
分子機能化学		高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授 藤澤 郁英 助手				
		有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授				
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授				
		高分子材料工学研究室	辻 秀人 教授 荒川 優樹 助教				
		有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授				
		界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授				
		機能性高分子化学研究室	原口 直樹 准教授				
分離分析化学研究室	平田 幸夫 准教授						

環境・生命工学系事務室	B棟事務室	河合 充代 河合 里沙	技術専門職員	太田 初一 齊藤 年秀 坂井 悦子
	G棟事務室	江口 美由樹 坂上 千恵子		

海外同窓会 報告書

海外同窓会中国支部設立準備会議報告

電気・電子情報工学系 稲田 亮史

2015年9月11日(金)にTUT同窓会中国支部設立準備会議を中国東北大学(瀋陽市)にて開催しました。本会議には、瀋陽市にて勤務されている9名の留学生同窓生に参加いただき、TUT同窓会からは小職、本学からは、国際教育センター(CIE)の梅本先生、Lim先生、教務課の山口さん3名が参加致しました。特に、梅本先生には、研究室出身の留学生同窓生への声掛け等でサポートいただきました。

会議では、TUTの現状、TUT同窓会活動の現状、および同窓会名簿管理システムについて、小職から説明した後、中国同窓生の名簿データ管理、等について議論しました。当初は、代表同窓生の決定まで話を進めたいと考えていたが、国土の広さなどを考えて、同窓生の多い地域(上海および瀋陽近郊)ごとに代表同窓生を選出した方が良好等の意見をいただき、次年度以降継続検討していくことになりました。

その後、会場を中国東北大学国際ホテルに移して懇親会を行いました。懇親会には、中国東北大学とのツィニングプログラム締結に向けた協議のため来られていた井上理事・副学長にもご参加いただき、和やかな雰囲気の下で親睦を深めることができました。



海外同窓会タイ・ラオス・ベトナム支部設立準備会議報告

情報・知能工学系 山本 一 公

2015年10月30日(金)～11月1日(日)にタイ・ラオス・ベトナムのTUT同窓会・海外支部設立準備会議を行いました。

10月30日(金)は、タイ・バンコクのパトゥムワン工科大学にて、「TUT同窓会・海外支部設立準備会議」を行いました。TUTからは三機関連携事業の教職員を含め10名、タイからは4名のOBの参加者がありました。TUTおよびTUT同窓会の紹介等を行った後、支部長の選出を行い、支部長にはPetch Pongpo氏、副支部長にPanya Minyong博士を選出しました。

TUT同窓会の後、引き続きパトゥムワン工科大学にて、豊橋技科大・長岡技科大(NUT)・高専機構(NIT)による「三機関合同海外同窓生の集い」を行い、三機関連携同窓会に関わる名簿データ管理等について意見交換を行いました。その後、Somboon Seafood Restaurantに場所を移し、「三機関合同海外同窓生の集い」の懇親会を行いました。参加者は前記のTUT関係者・TUT OBに加え、NUT関係者2名、NUT OB 4名、NIT関係者5名、合計25名と盛況な会となり、参加者間の交流を深めました。



支部長に選出された Petch Pongpo 氏



パトゥムワン工科大学での三機関合同海外同窓生の集い



Somboon Seafood での懇親会



10月31日(土)は、ラオス・ヴィエンチャンのMercure Hotelにて、「TUT同窓会・海外支部設立準備会議」および「三機関合同海外同窓生の集い懇親会」を行いました。「TUT同窓会・海外支部設立準備会議」には、TUTからは三機関連携事業の教職員を含め10名、ラオスからは9名のOBの参加者がありました。TUTおよびTUT同窓会の紹介等を行った後、支部長の選出を行い、支部長にはChao Yang氏、副支部長にLinda Changvisommitさんを選出しました。

TUT同窓会の後、引き続いて、「三機関合同海外同窓生の集い懇親会」を行いました。参加者は前記のTUT関係者・TUT OBに加え、NUT関係者3名、NUT OB 1名、NIT関係者1名、合計23名とこちらも盛況な会となり、参加者間の交流を深めました。



支部長に選出された Chao Yang 氏



三機関合同海外同窓生の集い



懇親会の様子

11月1日(日)は、ベトナム・ハノイのHotel Nikko Hanoiにて、「TUT 同窓会・海外支部設立準備会議」および「三機関合同海外同窓生の集い懇親会」を行いました。「TUT 同窓会・海外支部設立準備会議」には、TUT からは三機関連携事業等の教職員・関係者を含め12名、ベトナムからは11名のOBの参加者がありました。TUT および TUT 同窓会の紹介等を行った後、支部長の選出を行い、支部長には Duong Minh Duc 博士、副支部長に Dang Anh Trung 氏を選出しました。

TUT 同窓会の後、引き続いて、「三機関合同海外同窓生の集い懇親会」を行いました。参加者は前記の TUT 関係者・TUT OBに加え、NUT 関係者2名、NUT OB 1名、NIT 関係者4名、NIT OB 6名、合計36名と今回の3ヶ国中でも盛況な会となり、参加者間の交流を深めました。



支部長に選出された Duong Minh Duc 博士



三機関合同海外同窓生の集い



懇親会の様子

今回、上記の3ヶ国で TUT 同窓会組織が正式に立ち上げられ、支部長・副支部長の選任ができたことで、各国内での同窓会組織の活発化が図れるとともに、各国間での同窓会組織をネットワーク化することが可能になってくると考えられます。これから、日本の同窓会組織および先に立ち上げたマレーシア支部との連携を積極的に行って、このネットワークを有効に活用して行きたいと考えています。

海外同窓会インドネシア支部設立準備会議報告

情報・知能工学系 山本 一 公

2016年2月27日(土)にインドネシア・バンドンのバンドン工科大学(ITB)にてTUT同窓会・海外支部設立準備会議を行いました。TUTおよびTUT同窓会からは、井上光輝先生(理事・副学長)、高嶋孝明先生(ICCEED, TUT同窓会顧問)、蒲原弘継先生(CIR, TUT同窓会役員(インドネシア担当))、山本(3系, TUT同窓会副会長)の4名が出席いたしました。インドネシアからは、21名のOBの参加者がありました。

まず、TUT同窓会として「TUT同窓会・海外支部設立準備会議」を行いました。古野TUT同窓会長からのビデオメッセージの後、井上先生にご挨拶をいただき、高嶋先生からのTUT紹介(「TUT Today」)、その後山本からTUT同窓会の活動紹介を行いました。それに引き続いて支部長・副支部長の選出を行い、支部長にはSandro Miharadi博士、副支部長にはInsannul Kamil博士を選出いたしました。

TUT同窓会の後引き続いて、豊橋技科大・高専機構(NIT)による「豊橋技科大・高専機構合同海外同窓生の集い」を行いました(参加者はTUT同窓会と同じ)。蒲原先生から三機関連携活動に関する活動紹介があり、その後三機関連携同窓会に関わる活動(同窓会ミーティングやネットワーク構築)、名簿データ・Webサイト管理等について意見交換を行いました。

また、「TUT同窓会」と「合同海外同窓の集い」の間に昼食会(懇親会)を催し、参加者同士の交流を深めました。



支部長に選出された Sandro Miharadi 博士



集合写真。中央が Sandro Miharadi 支部長と Insannul Kamil 副支部長



昼食会(懇親会)の様子



同窓会事務局より

・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成26年度～27年度） ・・・・・・・・

1. 会報の発行

諸事情により編集作業が遅れていた同窓会報第32号を本号と同時に平成28年7月に発行しました。これまで同様、電子化してホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて公開しており、随時閲覧可能になっています。同窓生の皆様にはメール送付等にて会報発行の周知を予定しています。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成27年3月23日にアイプラザ豊橋にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学学生食堂において学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。平成27年度（平成28年3月23日）も例年通り行う予定です。

3. 学生活動への援助

本学学生課との共同で、学生活動援助を平成27年度は27団体に行いました。詳細は本文をご覧ください。

4. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成26年度は9団体、平成27年度は平成28年1月現在で9団体に対して助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）に掲載されていますので、是非ご覧ください。

5. 役員会の開催

平成26年度中に4回、平成27年度は平成28年1月までに3回の定例役員会を開催し、同窓会活動に関して話し合いました。なお、役員会の議事録はホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

6. Web名簿システムの稼働

平成27年5月に同窓会員向けweb名簿システムを稼働しました。これにより同窓会活動の活性化が期待されます。

7. 大西学長との懇談

平成27年6月22日に、割烹壺岐にて大西学長（本会名誉顧問）、大貝理事、井上理事、鈴木理事、本会の古野会長、高嶋顧問、稲田副会長、山本副会長との懇談を行い、主として新しいシステム上での名簿の共同管理と大学40周年記念事業への同窓会からの協力などについて意見交換を行いました。

8. 定例総会の開催

平成 27 年 7 月 11 日に、大学 C 棟 204 会議室にて定例総会を開催し、web 名簿会員システム、40 周年記念事業への協力、平成 26 年度の事業報告および収支決算報告、ならびに平成 27 年度の事業計画および収支予算案等について話し合いました。なお、総会の議事内容および議事録はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて閲覧できます。

9. 技科大同窓生集いの部屋の開催

平成 27 年 8 月 22 日に開催された豊橋技科大オープンキャンパスにおいて、同窓生集いの部屋を設けました。また、同窓会主催企画として、「深宇宙探査を支えるイオンエンジン技術」と題して、西山和孝氏 (JAXA, 小惑星探査機「はやぶさ」スーパーバイザー) による講演会を開催しました。

10. 海外同窓会活動

平成 26 年度のマレーシアに引き続き、平成 27 年 9 月に中国支部設立準備会が開催され、稲田副会長が出席しました。平成 27 年 10 月にはタイ、ラオス、11 月にはベトナムでも海外支部設立準備会議を行い、高嶋顧問、山本副会長が出席しました。

11. 豊橋技術科学大学40周年記念事業への協力

平成 27 年 10 月 27 日に第 1 回 40 周年記念事業委員会を開催し、同窓会としての記念事業への協力体制について話し合いました。

平成26年度 同窓会収支報告・事業報告

平成26年度 技科大同窓会決算報告

予算

■ 収入の部

入会金	2,000,000
会費	4,000,000
預金利息	10,000
会報広告費	80,000
旧系管理会費繰入金	
旧1系	5,172,791
旧2系	4,561,018
旧3・4系	5,970,072
旧5系	2,218,367
旧6系	1,778,384
旧7系	4,803,796
旧8系	4,435,291
新系対応準備金	15,439,276
H26年度収入計	50,468,995
H25年度からの繰越金※	14,774,918
合 計	65,243,913

決算

■ 収入の部

入会金(407名×5,000)	2,035,000	
会費(407名×10,000)	4,070,000	
預金利息	2,277	
郵便普通		168
銀行普通(三井住友)		1,198
銀行定期(三井住友)		911
会報広告費	0	
旧系管理会費繰入金	39,188,572	
旧1系		0
旧2系		4,555,744
旧3・4系		5,970,714
旧5系		2,207,389
旧6系		1,784,019
旧7系		4,794,151
旧8系		4,434,913
新系対応準備金		15,441,642
H26年度収入計	45,295,849	
H25年度からの繰越金	14,774,918	
合 計	60,070,767	

予算

■ 支出の部

会報経費	1,000,000
総会案内状等印刷・連絡費	1,000,000
役員経費	100,000
庶務経費	50,000
海外同窓生交流会出張費 (古野会長)	250,000
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生活動援助金	500,000
卒業生懇親会開催援助	600,000
技科大同窓生集いの部屋経費	40,000
各系活動支援経費	2,000,000
同窓会管理システム経費 (導入+管理費)	4,000,000
H26年度支出計	9,790,000
H27年度への繰越金	55,453,913
合計	65,243,913

決算

■ 支出の部

会報経費	220,320	220,320
会報No.31デジタルブック		
総会案内状等印刷・連絡費	654,169	189,000
H26総会案内往復葉書印刷費(三愛企画)		465,169
H26総会委任状葉書(返信分・料金後納)		
役員経費	72,000	14,000
2014/5/31役員会(古野会長2000円+役員1000円×12名)		12,000
2014/7/30役員会(古野会長2000円+役員1000円×10名)		14,000
2014/8/30臨時総会(古野会長2000円+役員1000円×12名)		15,000
2014/12/1役員会(古野会長2000円+役員1000円×13名)		17,000
2015/2/24役員会(古野会長2000円+役員1000円×15名)		
庶務経費	87,130	7,020
各種振込手数料		0
入会金・会費振込用紙印刷費		10,000
学生アルバイト代(名簿データ整理)		55,110
学長懇談会経費(会場代+食事代)		15,000
H27年度入学辞退者への同窓会費返金		
海外同窓生交流会出張費 (山本副会長)	135,875	115,890
航空チケット代金		18,524
宿泊費		1,461
タクシー代金(空港~宿泊先, RM44.7(1RM=32.68円))		
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生活動援助金	500,000	
課外活動援助		500,000
卒業生懇親会開催援助	442,000	60,000
大串達夫先生退職記念パーティー (H26.5.17実施, 31名参加)		62,000
中川聖一先生ご退職記念講演会・祝賀会 (H26.6.7-8実施, 31名参加)		36,000
神野先生を囲む会(H26.7.5実施, 18名参加)		58,000
2014年豊橋技科大海岸工学研究室OB会 (H26.9.20実施, 29名参加)		22,000
第1回大門研究室OB-OG会(H26.10.18実施, 11名参加)		50,000
雲雀会(H26.11.21実施, 25名参加)		50,000
豊橋日曜学校41周年記念OBOG会 (H27.2.14実施, 25名参加)		74,000
廣島先生退職記念パーティー(H27.3.22実施, 37名参加)		30,000
豊橋技術科学大学旧6系関西支部同窓会 (H26.12.11実施, 15名参加)		
技科大同窓生集いの部屋経費	13,000	
学生アルバイト代(3000円×2名+7000円×1名)		13,000
各系活動支援経費	337,317	
海外同窓会開催支援 (近畿日本ツーリスト302400円+Lim先生立替分34917円)		337,317
同窓会管理システム経費	2,864,113	2,721,600
導入経費		28,080
2015年2月分事務局利用料		28,080
2015年3月分事務局利用料		86,353
会員管理システム英語ページ用翻訳作業(NAI)		
H26年度支出計	5,575,924	
H27年度への繰越金(A)	54,494,843	
合計	60,070,767	

平成27年度 技科大同窓会予算

■ 収入の部

項 目	金 額 (円)	
入会金		¥2,200,000
会費		¥4,400,000
預金利息		¥10,000
会報広告費		¥80,000
旧1系管理会費繰入金		¥5,172,791
H27年度収入計		¥11,862,791
H26年度からの繰越金		¥54,494,843
合 計		¥66,357,634

■ 支出の部

項 目	金 額 (円)	
会報経費 (No.32, No.33)		¥600,000
総会案内状等印刷費・連絡費		¥1,219,538
役員経費		¥100,000
庶務経費		¥100,000
海外同窓会出張費		¥500,000
卒業記念パーティ援助金		¥250,000
学生活動援助金		¥500,000
同窓生懇親会開催援助		¥800,000
技科大同窓生集いの部屋経費		¥50,000
各系および海外同窓会活動支援経費		¥1,000,000
同窓会管理システム経費 (管理費+a)		¥2,000,000
40周年記念事業活動経費		¥1,000,000
H27年度支出計		¥8,119,538
H28年度への繰越金		¥58,238,096
合 計		¥66,357,634

第63回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

- 1 日 時 平成26年5月24日(土)・25日(日), 31日(土)
 平成26年6月1日(日), 7日(土)・8日(日), 14日(土)・15日(日), 21日(土)・22日(日), 28日(土)・29日(日)
 平成26年7月5日(土)・6日(日), 12日(土)・13日(日), 19日(土)・20日(日)
- 2 場 所 岐阜メモリアルセンター長良川競技場他20会場
- 3 幹事大学 岐阜大学
- 4 成 績

(男 子)

大学名 競技種目		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	5	4.0	6	3.0	8	1.0	2	8.0	7	2.0	1	10.0	3	6.0	4	5.0
2	水泳	2	8.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0	3	6.0	1	10.0
3	硬式野球																
4	準硬式野球	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	3	5.5	1	10.0	5	2.5	3	5.5
5	硬式テニス	8	1.0	5	4.0	6	3.0	1	10.0	7	2.0	4	5.0	2	8.0	3	6.0
6	ソフトテニス	1	8.0	2	6.0	5	2.0	5	2.0	5	2.0	3	5.0	4	4.0		
7	バスケットボール	4	3.0	1	6.0	6	1.0	3	4.0			5	2.0	2	5.0		
8	バレーボール	1	8.0	4	4.0	7	1.0	2	6.0	6	2.0			3	5.0	5	3.0
9	卓球	6	1.0	2	5.0			1	6.0			5	2.0	4	3.0	3	4.0
10	バドミントン	1	10.0	6	3.0	5	4.0	2	8.0	8	1.0	7	2.0	4	5.0	3	6.0
11	サッカー			6	2.0	7	1.0	2	6.0	5	3.0	3	5.0	4	4.0	1	8.0
12	ハンドボール	1	6.0	3	4.0			5	2.0			2	5.0	6	1.0	4	3.0
13	柔道	1	6.0	5	1.5	5	1.5	3	4.0			4	3.0			2	5.0
14	剣道	1	10.0	6	3.0	7	2.0	2	8.0	8	1.0	3	6.0	5	4.0	4	5.0
15	空手道	3	5.0	7	1.0			2	6.0	6	2.0	4	4.0	5	3.0	1	8.0
16	弓道	2	6.0	4	4.0	5	2.0	5	2.0	1	8.0			5	2.0	3	5.0
17	体操	1	6.0	4	3.0			3	4.0			5	2.0	-	0.0	2	5.0
18	馬術	2	5.0	1	6.0			5	1.5			5	1.5	3	3.5	3	3.5
19	アーチェリー	4	2.0					3	3.0			5	1.0	1	5.0	2	4.0
20	少林寺拳法	4	2.0					1	5.0			3	3.0	2	4.0	-	0.0
合計得点			93.5		67.5		22.0		93.0		30.5		69.5		71.0		86.0
男子順位			1		6		8		2		7		5		4		3

(女 子)

大学名 競技種目		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	3	5.0	6	2.0			2	6.0	7	1.0	1	8.0	5	3.0	4	4.0
2	水泳	1	6.0					6	1.0	4	3.0	2	5.0	5	2.0	3	4.0
5	硬式テニス	6	2.0			-	0.0	1	8.0	3	5.0	5	3.0	2	6.0	4	4.0
6	ソフトテニス	4	3.0	2	5.0			1	6.0	5	1.5	5	1.5	3	4.0		
7	バスケットボール	3	3.0					1	5.0			2	4.0	5	1.0	4	2.0
8	バレーボール	3	4.0	-	0.0			2	5.0	5	2.0	1	6.0			4	3.0
9	卓球	2	5.0	6	1.0			4	3.0			3	4.0	5	2.0	1	6.0
10	バドミントン	5	3.0	4	4.0			2	6.0	3	5.0	1	8.0	6	2.0	7	1.0
12	ハンドボール	1	4.0					-	0.0			2	3.0	3	2.0		
13	柔道																
14	剣道	1	6.0					4	3.0	6	1.0	5	2.0	3	4.0	2	5.0
15	空手道	4	3.0					2	5.0	1	6.0	3	4.0	6	1.0	5	2.0
16	弓道	2	6.0	3	5.0	7	1.0	6	2.0	1	8.0			4	4.0	5	3.0
17	体操																
19	アーチェリー																
合計得点			50.0		17.0		1.0		50.0		32.5		48.5		31.0		34.0
女子順位			1		7		8		1		5		3		6		4

【学生活動への援助報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

陸上競技部

電気・電子情報工学課程 4年 門脇 瑞樹

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 若原 昭浩

部員数：学部 12名, 大学院 9名

現在陸上部で保有している円盤は、長年の使用により大きく劣化している。そのため、実際の試合で使用する円盤と重量や形状が若干異なり、本番に近い練習が不可能になっている。新品の円盤を購入していただいたことにより、本番に近い練習をすることが可能になった。炭酸マグネシウムは、試合の際に滑り止めとして使用するため、上記と同様の効果を得ることができた。夏場の練習において、ごくまれに軽度の熱中症に掛かる部員が数名出た。散水用ホースリールを熱中症対策に用いることで熱中症に掛かる部員が激減した。また、これまで幅跳び用の砂場の整備をするのに、バケツに水を汲んで行っていたが、散水用ホースリールを用いることで整備が容易になった。



ラグビー部

環境・生命工学専攻 1年 山本 萌恵

顧問教員：電気・電子情報工学系 准教授 稲田 亮史

部員数：学部 15名, 大学院 13名

この度は課外活動活性化経費にて、私達ラグビー部を支援して頂き誠にありがとうございました。部員一同、心よりお礼を申し上げます。援助金は、タックルバッグ、テーピングテープ、ラインカーの購入に使用させていただきました。タックルバッグは練習時に、テーピングテープは試合時の選手の怪我防止や滑り止めに、ラインカーは試合時のライン引きにそれぞれ使用させていただいています。

現在、ラグビー部には修士 13名、学部 15名の計 28名が所属しています。毎週火、木曜日の放課後、土曜日の午前中に本学グラウンドで練習しており、時には他大学や社会人のチームと練習試合や合同練習をしています。私達ラグビー部は東海学生連盟に加盟しており、秋季に開催される東海学生ラグビーリーグに出場しています。現在所属している Bリーグで優勝し、Aリーグへの昇格を目指して部員が一丸となって練習に励んでいます。2014年度のリーグ戦では、前年度の 8チーム中 7位という不本意な結果を上回る 4位という好成績を残しました。この結果も先輩方のご支援のおかげだと感謝しております。この文章を書いている現在、2015年度リーグ戦の真ただ中です。現在 2勝 3敗で 2試合を残しております。チーム一丸となり、先輩方への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進してまいります。今後ともご支援とご声援のほどよろしくお願い致します。



硬式野球部

電気・電子情報工学課程 2年 田淵 健太
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
特定准教授 土谷 徹
部員数：学部 14名

昨年に引き続き硬式野球部の活動をご支援いただきまして有難うございます。現在は4年生1人、3年生4人、2年生2人、1年生7人の計14人で活動しています。顧問として電気・電子情報工学系教授の澤田和明部長と特定准教授の土谷徹監督にご支援・ご指導いただいております。練習は主に火曜・木曜の放課後と土曜の午後に行っています。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に加盟しており、春季と秋季の年2回のリーグ戦があり、現在は3部リーグに所属しています。今年度の成績は、春季は3部Bリーグ5位、秋季は3部Bリーグ4位と、昨年9人の先輩が引退され、新入部員の多いチーム編成の中、春からの成長を感じられる結果となりました。

授業等の関係で平日の練習は全員揃うことが難しく、主に個人練習や基礎的な練習を行い、土曜日に全体練習や実戦的な練習を行っています。冬場のオフシーズンは筋トレや走り込みなど、体作りを目的とした練習を行っています。リーグ戦前にはオープン戦を積極的に組んで、リーグ戦に備えています。

今回の援助金は主に連盟費に使わせていただきました。来年度は、冬場にしっかりトレーニングを積み、新入生とも力を合わせ、1勝でも多く勝利を積み重ね、充実したリーグ戦にしたいと思っています。今後ともご支援の方よろしくお願い致します。



バレーボール部

機械工学課程 4年 岩田 幸大
顧問教員：機械工学系 系長 福本 昌宏
部員数：学部 25名、大学院 2名

この度は、我々バレーボール部に課外活動活性化経費のご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同より感謝の意を表します。

バレーボール部は現在、学部生 25名、大学院生 2名の計 27名で活動しており、毎週火曜・木曜・土曜の練習に加え、愛知大学リーグ戦、東海大学リーグ戦、東海オープン選手権大会、東国体に出場しています。また夏季にはビーチバレーの大会にも積極的に参加しています。

今年度の結果は、愛知大学リーグ5部残留、東海リーグ5部残留となっており、惜しい試合が続く中で結果が残せずにいます。しかし、試合の数を重ねるごとにフルセットにもつれ込む試合が多くなり、少しずつ実力、士気ともに向上していると思います。

今回の課外活動活性化経費では、ビーチバレーを除く大会に毎回着用しているユニフォームの修繕費用に使用させていただきました。今まで使用していたユニフォームは、大学の文字が剥がれ落ちるほど何年にもわたり使い回されているもので、早急に直す必要があったため、今回申請することにしました。

ユニフォームが修繕されたことにより、大会に対するモチベーションの向上、また大会に向けた日頃の練習にも身が入るようになり、部全体がより一層活気づいたと思います。

来年度では、大学リーグ戦の昇格を目標に精進していく所存であります。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



バドミントン部

環境・生命工学課程 4年 大和田 瑞貴

顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数：学部 32名, 大学院 10名

この度はバドミントン部に御支援を賜り、誠にありがとうございます。部員一同、心より深くお礼申し上げます。この度の支援金ではバドミントンシャトル夏用・冬用各2箱を購入させて頂きました。近年、バドミントンシャトルの値段が上昇しており、部費のやりくりだけでは苦しい状況だったため非常に助かりました。

私たちバドミントン部は大会で1つでも多くの勝利を収めるために日々練習に励んでおります。昨年の東海地区国立大学体育大会では5位という結果でしたが、今年は4位とひとつ順位を上げることができました。また東国体以外にも豊橋バドミントン新人戦、東三河選手権、豊橋市民スポーツ祭、豊橋バドミントンリーグ、豊橋バドミントン選手権等、様々な大会にも積極的に出場し入賞した選手も数多くおりました。

良い結果を残すことは簡単ではありませんが、日々の基礎トレーニングと試合形式練習の積み重ねにより個々の実力も上がってきているので、今後は東海地区国立大学体育大会 優勝、豊橋リーグ1部 優勝も不可能ではないと思います。

今回ご支援いただいたこと、そして、我々の活動は多くの方々によって支えられていることを忘れず、これからも日々精進を重ねていきたいと思っております。今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い致します。



柔道部

電気・電子情報工学専攻 1年 一色 大地

顧問教員：総合教育院所属 准教授 佐久間 邦弘

部員数：学部 3名, 大学院 7名

柔道部の部長を務めさせて頂いております、電気・電子情報工学専攻1年の一色大地と申します。このたびは私たち柔道部に課外活動活性化経費より多額のご支援を頂き誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

柔道部は現在、総合教育院所属の佐久間邦弘准教授に顧問をしていただきながら学部3名、大学院7名の合計10名で活動しており、週3日の基本的な練習の他に地域で開催されている練習会等へ参加しております。決して多くない人数ながらも、大会優勝を目指し互いに切磋琢磨し合っております。

援助金は指導に来て下さる講師の方への謝金として使用させて頂きました。学生のみでの練習では技術面での課題が見つけれず伸び悩んだり、試合前などは自分達の調整に集中してしまうあまり初心者の方への指導がおろそかになってしまうことがありましたが、今回ご支援いただいたことで講師の方より部員一人一人がそれぞれに合った指導を受けることができました。

今年度出場した大会においては残念ながら良い成績を残せなかったものの、昨年度大敗を喫した強豪選手相手に一歩も退かず最後まで戦い抜くなど、部員たちの体面、技術面、精神面での確実な成長を実感しております。

今後とも部員一同さらなる飛躍を目指し「精力善用」「自他共栄」の精神を胸に日々精進していく所存です。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



武道部

情報・知能工学課程 2年 武道部部长 水原 宝英
顧問教員: 総合教育院 准教授 中森 康之
部員数: 学部 6名, 大学院 8名

このたびは私たち武道部の活動経費を援助してください誠にありがとうございました。私たち武道部の主な活動は剛柔流空手道および古武道の稽古です。また日々の稽古の成果を一般の方々にお見せする機会として、年に一度豊橋市民文化会館で演武会を開催しております。2015年度の演武会では百数十名の方にご来場いただき大成功を収めることができました。

武道部では、今回援助していただいた経費を巻き藁という器具の購入に使用させていただきました。巻き藁とは突きや手刀を実際に当てて稽古する鍛錬具の一つで、これを使用することによって、体の締め、呼吸、力の入れ方など、正しい突き方を身に付けることができます。現在武道部では、一台の巻き藁を部員が交代で使用しておりますが、今回の援助によって、より効率的な稽古ができるようになると思います。武道部では個人で使用する空手衣、杖・ヌンチャク・サイ・トンファーといった古武道具は、原則として個人で購入するため出費も多く、高価な巻き藁までは自分たちで購入することが難しいのが現状です。そのため今回の援助は大変有り難く思います。部員一同、心より感謝いたします。

今後も精一杯活動させていただきますので、ご支援、ご協力のほどよろしく願いいたします。



トライアスロン部

電気・電子情報工学課程 3年 宮本 大
顧問教員: 電気・電子情報工学系 教授 穂積 直裕
部員数: 学部 39名, 大学院 15名

この度は私達トライアスロン部へご支援いただき、ありがとうございました。部員一同、心よりお礼申し上げます。

2015年度は16名の新生が入部し、総勢54名の大所帯となったトライアスロン部ですが、火曜日のラン練、水曜日のスイム練、土曜日のバイク練を通して、心身ともに鍛錬しております。今年度は蒲郡オレンジトライアスロンに1名、トライアスロン伊良湖大会に7名の部員が出場し、トライアスロン伊良湖大会は天候不順のためランの記録は残りませんでしたが、全員がバイクまで完走することができました。その他にも、大井川マラソン、キングオブヒルクライム富士山、鈴鹿ロードレースなど数々のレースに出場し、好成績を修めるなど、マラソンやロードレースの大会にも挑戦しています。

今回の課外活動活性化経費は、トライアスロンのスイムに使用するウェットスーツの購入に充てさせていただきました。スイムの際にはウェットスーツの着用が義務付けられており、大会に参加するために必要となりました。今年はトライアスロン伊良湖大会で、沢山の新人部員が購入したウェットスーツを着て参加しました。私もその一人ですが、当日は天候不順で海の波が高く、激しい雨も降っていましたが、新しく購入したウェットスーツのおかげでどうにか泳ぎ切ることができました。

これからも日々精進して参りますので、ご支援・ご協力のほどよろしく願い致します。



弓道部

建築・都市システム学課程 4年 久保田 剛司
顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
部員数：学部 33名, 大学院 7名

この度は、私たち弓道部に課外活動活性化経費の援助をしていただき、誠にありがとうございます。援助金は、弓の購入と道場代に充てさせていただきました。おかげで、毎年のごとく、多くの新入部員が入部し、密度の濃い練習を送る日々を過ごしています。部員を代表してお礼申し上げます。

今年度で弓道部は創部から8年目を迎えました。今年は部員共々、「楽しく弓道をしよう」という目的とともに、「弓道をやった証を残そう」、「さまざまな人に弓道を知ってもらおう」という目標を新たに掲げました。

その甲斐あってか、大会では、名古屋で行われる大会での入賞、市民大会では優勝・準優勝を部員が総取りするなどの結果を残しました。また、弓道に興味を持っているマレーシア、アメリカからの留学生をサークル1日体験に参加していただきました。文化が違う人に弓道を教えることで、部員の意識向上にもつながりました。個人の成果では、参段1人を含む、昇段が4人となりました。

現在、弓道部では澤田和明先生に顧問をしていただき、野依神社の弓道場を借りて日々精進しております。学内に安土を建設していただきましたが、道場がないため部活動を行うためには十分とは言えません。弓道場が完成すれば、さらなる成果が残せると考えております。



マレーシアからの留学生との交流

モータースポーツクラブ

機械工学課程 学部 4年 清水 悠希
顧問教員：機械工学系 教授 飯田 明由
部員数：学部 18名, 大学院 3名

この度は私たちモータースポーツクラブに課外活動活性化経費のご支援をしていただき、ありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

モータースポーツクラブは今年度、新入部員15名を加え、学部生18名、大学院生3名の合計21名ととても賑やかになりました。新入部員のほとんどがカート未経験者であるため、まずはカートを楽しんでもらうことに努めてまいりました。最初は自分でカートを操縦する楽しさ、次に仲間と走る楽しさ、そしてタイムを縮め成長する楽しさと、カートの楽しさを分かって貰えたと思います。その次のステップとして、レースの楽しさも分かって貰いたいのですが、やはり初めのうちは大勢で走ること、勝負として走ることが怖いという声も聞こえてきます。そのようなこともあり、今回、カート用フルフェイスヘルメットとプロテクターをご支援いただきました。

我が部は平成27年10月25日、クイック浜名の3時間耐久レースに2チーム参戦いたしました。成績は14チーム中12位と14位と、あまり芳しくない結果とはなりましたが、スピンや接触もあった中、誰一人けがをすることなく完走することができました。

今年度は部員も多いので、切磋琢磨しながら、成績の向上を目指していきたいと思います。今後ともご声援のほどよろしく願いいたします。



ボウリング部

機械工学専攻 博士前期課程 1年 深澤 和馬
顧問教員: 情報・知能工学系 教授 青野 雅樹

この度はボウリング部に課外活動活性化経費のご支援をしていただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。

ボウリング部は昨年度新たに課外活動団体として認められ、現在は学部14名・大学院7名の計21名で活動を行っています。設立当初は「楽しく」が主だった部員たちも、日々練習を重ねていくにつれ、更に「強く」なることを目標とするようになってきました。そこで技術力の向上のためにも、今年度頂いた支援金は、日本プロボウリング協会に所属している神谷プロらへの指導謝礼金として使わせていただきました。

現在、部活動では経験が長い部員が普段の練習の指導をしています。日々の練習によって部員のアベレージなどは上がってはおりますが、スポーツにおいて「基礎」はとても重要です。しっかりとした技術をもつプロボウラーの方に指導してもらうことで投球フォームなどの基礎の徹底化、そして上位部員のスキルアップを目指しました。実際、1回目のプロ指導でアベレージを60点上げた部員もいました。部員のスキルアップを期に、他大学交流戦や大会出場などを計画しています。

ボウリング部では多くの方々に支援していただいたことを忘れず、日々精一杯練習を行っています。今後ともご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。



吹奏楽団

機械工学課程 3年 前田 克久
顧問教員: エレクトロニクス先端融合研究所
電気・電子情報工学系 准教授 岡田 浩
部員数: 学部 30名, 大学院 11名

いつも吹奏楽団のご支援を賜り、誠にありがとうございます。団員一同、心よりお礼申し上げます。

私どもは課外活動活性化経費にて頂いた援助金でコンサートバスドラムの方を購入させていただきました。大学創立から40年近くになる最近では私どもが使う楽器の中には更新が必要なものも出てきております。高価な楽器の更新・購入を進める上で課外活動活性化経費は大変に有難い制度であり、団員一同、感謝しております。

今年度、吹奏楽団には20人の新入生を迎え、総勢41名で活動しています。

今年は「Have Fun!」を団目標として、近隣の動植物園でのコンサートや小学校でのクリスマスコンサートなどを行い、地域の方々に音楽を楽しんで頂けるように日々練習に励んでおります。また、演奏中に動きをつける、立奏を行うなどの新たな挑戦も多数行ってきました。

ご支援頂いたコンサートバスドラムは、今年の10月行いました第31回定期演奏会で早速使用させていただき、非常に活躍をしました。今後も毎年演奏させていただいている卒業式、入学式での式典演奏など多数の演奏機会が御座いますので、大切に使用させていただきます。

こういった活動をさせて頂けるのも、学校関係者様含め、多くの方々に支えられているからということ忘れず、少しでも大学や地域の方々に貢献出来るように団員一同精一杯活動をしてまいります。

今後共ご支援よろしくお願い致します。



軽音楽部

建築都市システム学課程 4年 澤木 達也
顧問教員：電気・電子情報工学系 准教授 稲田 亮史
部員数：学部 44名, 大学院 26名

この度は、軽音楽部に課外活動活性化経費をご支援いただき、誠にありがとうございました。部員一同心より感謝申し上げます。今回、課外活動活性化経費はベースヘッドアンプの購入させていただきました。ご支援により練習スタジオの機材の充実がしたことは、部員のモチベーションを高めるひとつの要因となっており、演奏技術の向上につながっています。

私たち軽音楽部はこの一年間、部一丸となってライブを進行することを目標に活動してきました。軽音楽部では、年間6回行われる学内ライブや豊橋駅前のライブハウスを貸し切って行うライブイベントなど、日々精力的に活動を行っています。ライブの運営に関しては会場の設営や照明・音響関係の管理など部員には演奏以外にも多くの役割があり、ライブの円滑な運営には、部員の協力が必要不可欠です。そこで部活動を主体となって動かしている幹部はもちろん、上級生下級生関係なくそれぞれが役割を持ってライブの進行にあたることで円滑なライブ進行を実現してきました。今後もこの意識を絶やさず、部一丸となって活動にあっていききたいと思います。

これまでご支援をいただいていたおかげで活動できているということを忘れず、部員一同切磋琢磨しながら演奏技術やライブの完成度を高めていきたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願ひいたします。



JAZZ研究会

環境生命工学課程 4年 片山 峻策
顧問教員：環境生命工学系 教授 平石 明
部員数：43名 (学部 21名, 大学院 22名)

この度は課外活動活性化費の御援助誠にありがとうございます。お陰様でアルトサックスの演奏効率が改善され、新たにサックスに挑戦する会員も出るようになりました。

本サークルは『Jazz』について研究を行うサークルであり、ジャズを始めとする音楽の演奏や鑑賞を日々楽しんでおります。

技科大祭や新入生歓迎会など学内での演奏はもちろんのこと、他の大学での演奏や豊橋・浜松ジャズ祭り、東国祭など学外での演奏にも力を入れております。音楽理論講座や金曜セッションなどサークル内での活動も確立されつつあり、それに加え学年の枠を超えてバンドを組み演奏するシャッフルライブやおでんセッション会など、演奏意欲や技術の向上につながりながらもイベントを楽しむサークルとして成長しております。

これからは先輩方から培ってきたものを維持しながらも胸を張って楽しくステージでの演奏を行える様、会員同士で高め合うサークルを目指していきます。

会員の成長及び新たなステージへ向けて、今後とも引き続き支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



アカペラサークル

情報・知能工学課程 3年 鍛治 秀伍

顧問教員: 国際交流センター 准教授 吉村 弓子

部員数: 学部 54名, 大学院 22名

この度は、私たちアカペラサークル J.U.S.T. をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同を代表して心からお礼申し上げます。

アカペラサークル J.U.S.T. は、本学の学園祭や本サークル主催のアカペラライブ、他大学のアカペラライブなどでアカペラライブパフォーマンスを行っております。アカペラライブでより良いパフォーマンスができるよう、それぞれのバンドごとに日々練習を重ねております。他大学のサークルに比べ、学部生から大学院生までたくさんの部員が所属しているため、上下関係の繋がりが強く、練習の際はアドバイスが飛び交うとても活発なサークルです。今年度は30人を超える部員が入部し、より一層活動が活発となっております。すでに3回のJ.U.S.T. 主催ライブを開催し、中でも学園祭でのライブではたくさんのお客様にお楽しみいただきました。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、ライブに必要なマイクケーブルやヘッドホン、マルチケーブルの購入に充てさせていただきました。

多くの方々のご支援によって、活動できていることを忘れず、皆様のご期待に添うべくこれからも精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



ロボコン同好会

電気・電子情報工学課程 安井 大貴

顧問教員: 総合教育院/機械工学系 教授 鈴木 新一

部員数: 学部 30名, 大学院 18名

この度は我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費よりご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

ロボコン同好会は「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」出場と優勝を目指して活動しています。今年は国内大会「NHK 学生ロボコン 2015」で惜しくも優勝は逃しましたが、ベスト8という成績を残しました。また、大会最速の機動力と全自動動作が評価され、デザイン賞と特別賞を受賞しました。来年度こそは、NHK、更にはABUでの優勝を目指します。

また10月には、日本機械学会材料力学部門が4年に一度主催する国際会議「実験力学の最先端技術に関する国際会議 2015」にアトラクションで参加しました。今年のロボットが全自動で動くバトミントンロボットであったことから、海外からの参加者とバトミントンをし、大変な好評を博しました。

活動はこれに限らず大学間の技術交流等にも力を注いでおり、8月29日には「東海地区交流ロボコン」にも参加しました。また地域との交流の一環として、子供たちがロボットを身近に体験することを目的として地域イベントへも積極的に参加しています。

現在、来年度の「NHK 大学ロボコン 2016」の出場資格を獲得するため学部生30名、大学院生18名の計48名で活動しています。来年度の競技では、複雑なフィールドの上を風力などの間接的なエネルギーを用いて、マシンを動作させるため、精密な制御と、マシンの完成度が勝敗を左右します。今年度頂いた経費は、来年度以降も見据え、部に不足していたマクソンモータと、ロボットを動かすのに必要なバッテリーの購入にあてさせていただきました。ご支援を頂いたことを生かせるよう、部員一同精一杯尽力して参ります。今後のロボコン同好会の活躍にご期待ください。



NHK ロボコン入賞を祝して 国際会議で実演するロボコン同好会
手前がバトミントンロボット

コンピュータクラブ

情報・知能工学専攻 1年 金子 和寛
顧問教員: 情報・知能工学系 教授 梅村 恭司
部員数: 学部 48名, 大学院 8名

この度は、私たちコンピュータクラブに課外活動活性化経費よりご支援をして頂き、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼を申し上げます。

コンピュータクラブでは、電子回路やプログラミングなどといったコンピュータに関係のあることを活動の基本にしています。部活内ではC++ 班, C# 班, Android 班, Web 班, 電子回路班などのいくつかの班に分かれて活動しています。それぞれの班では、プログラミングやゲーム作成方法などの勉強会を行ったり、技科大祭や新入生歓迎会などで展示するための作品を作成したりしています。また TechLab という班は、高専プロコンや ACM-ICPC などの競技プログラミングの大会に参加しています。

今回、支援品として 27 インチのタッチパネルディスプレイを頂きました。現在のゲーム市場では、ゲームコントローラを使用するゲームよりもタッチパネルを使用するゲームが主流となっています。しかし、コンピュータクラブでタッチパネルを使用できる班は Android 班だけであり、ほかの班はゲームコントローラを使用するゲームしか作成できませんでした。今回のご支援で、他の班でもタッチパネルを使用できるようになり、今までにないゲームを作成できるようになりました。今までよりもより良いゲームを作成し、多くの方々に喜んでもらえるよう精一杯活動していきたいと思えます。



自動車研究部

機械工学課程・修士 1年 高橋 慶介
顧問教員: 機械工学系 教授 柳田 秀記

この度は私たち自動車研究部へご支援をいただき、誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。自動車研究部では毎年、学生フォーミュラ大会に出場しております。修士 17 名、学部 26 名の計 43 名の部員が自分たちで資金集めや設計、製作を行います。大会にはその製作した車輛に部員から選ばれたドライバーが搭乗し挑みます。また、車輛が完成した後も車の足回りやエンジン等のセッティング、ドライバー練習なども行います。今年、2015 シーズンでは 86 チーム中 7 位を獲得しました。この度支援していただいたマルチクレーンはエンジンをシャシ台に乗せるときや移動させるとき、車体が完成した後にエンジンを搭載する際に使用することを考えて申請させていただきました。エンジンは約 60kg あり、以前までは数人で移動させていました。しかしながら、エンジンを落としてしまうリスクや、作業効率の悪さが問題となっておりました。しかし、この度クレーンをご支援していただき、安全性や効率が向上することができました。部員一同大変感謝しております。また、クレーンを導入したことから活動場所にエンジンを調整できるスペースを新たに設けました。これらを活用し、2015 シーズンの反省の一つであるエンジン調整の不十分を改善し、2016 シーズンでは 3 位入賞を目指します。



おちゃのかい

建築・都市システム学課程 3年 花岡 峻太

顧問教員：環境・生命工学系 教授 平石 明

部員数：学部 26名, 大学院 6名

このたびは、おちゃのかいに同窓会よりクラブ援助金をいただき、誠にありがとうございます。おちゃのかい一同、心より御礼申し上げます。

おちゃのかいでは、毎年9月に豊橋公園三の丸会館にて「ふつうの茶会」というお茶会を開催しております。このお茶会はおちゃのかいにとって最も大きなイベントであり、一般の方、先生方や先輩方、他大学の方々などたくさんの方にお越しいただいております。このようなお茶会を通して、より多くの方にお茶の世界を知っていただきたいと思っております。

日々の稽古には学外から2人の先生に来ていただいております。今回の援助金は先生方への謝礼金に充てさせていただきました。新入生は先生や先輩から指導やアドバイスを受けながら、また互いに指摘し合いながら茶道を学んでいます。今年度は特に新入生が多く、日々の稽古も賑やかなものになりました。

そんな新入生たちが初めて御点前をする場が先日開催された技科大祭の「技科大庵」です。緊張の中、日々の稽古で学んだことを意識しながら、皆真剣に取り組んでいました。

最後になりましたが、これからもたくさんの方々にお茶会を楽しんでいただけるよう、稽古に励んでいきたいと考えております。今後ともおちゃのかいをよろしく願いたします。



第 24 回 ふつうの茶会

豊橋日曜学校

機械工学課程 4年 齊藤 哲郎

顧問教員：建築・都市システム学系 准教授 渋澤 博幸

部員数：学部 14名, 大学院 12名

この度は、私たち豊橋日曜学校にご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市内に在住の知的障害を持つ子どもたちとふれあうことを目的としたボランティアサークルです。子どもたちに普段の生活ではできないようなことを体験してもらえよう、各月ごとにテーマを決め、様々なレクリエーションや工作、キャンプや運動会などを企画しています。活動日は月に1日ですが、安全面などを配慮し、また、子どもたちに楽しんでもらえるように長い時間をかけて準備をします。当日の内容の企画・準備等は時間がかかる作業ではありますが、当日中に子どもたちの元気な笑顔が見られるようにと思ひ、活動しています。

今年は新たに10人の学生が参加してくれ、すでに新入学生の企画したレクリエーションも行っています。9月には警察をテーマにし、手帳や制服を工作しました。10月にはハロウィンをテーマにした運動会を行いました。今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、このような毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



国際交流クラブ

電気・電子情報工学課程学部 3年 川口 佑磨
顧問教員: 国際交流センター 准教授 桂田 浩一
部員数: 学部 51名, 大学院 7名

留学生 7人と本学学生 6人の計 13人で細谷小学校に訪問しました。各学年に対して留学生と翻訳のための本学学生がつくため、最低 12人の移動が必要でありバスチャーター代として課外活動活性化経費として申請を行いました。

訪問内容は、各学年で留学生が各国紹介のためのプレゼンテーションを行い、小学生からは日本の文化を紹介する出し物をして頂きました。また、その後、全体で交流を目的とした簡単なゲームを行い、小学生と一緒に準備して頂いた焼き芋を食べました。小学生も簡単な英語を習得していて、会話を楽しむことができました。

留学生が母国の文化との違いを体験し、珍しそうにさまざまな写真を撮っていました。日本の文化の理解を深める貴重な経験になっていました。また、大学の生活では日本の小学生と触れ合うことはないため、とてもいい機会になったと思います。

また、私たち本学学生も英語のプレゼンテーションの翻訳を行い、他国の文化を知ることができました。事前の打ち合わせなどを通して、普段話さない留学生とも自然にコミュニケーションがとれました。

小学校側の職員の方からは、是非来年以降も続けてより良い場にしていきたいという前向きな返答を頂きました。この機会を大切に来年以降も続けていきたいと思います。



ボランティア部

情報・知能工学課程学部 4年 村上 翔麻
顧問教員: 総合教育院 教授 加藤 三保子

この度は、ボランティア部にご支援いただき、誠にありがとうございます。購入して頂いたビデオカメラ・デジタルカメラ・ばねばかりは、表浜 BLUEWALK2015による海岸清掃活動で使用しました。

表浜 BLUEWALKとは、豊橋市から田原市へ続く表浜海岸約 50kmを清掃する活動です。今年で 9 回目の開催となり、8/13 から 8/22 の 10 日間清掃活動を行いました。10 日間の参加人数は延べ約 400 人、拾ったゴミの総重量は 1945kg、ゴミ袋の数で言うと約 600 袋にも及びました。我々ボランティア部も運営スタッフ・参加者として多くの部員が参加しました。表浜 BLUEWALK は海岸清掃だけでなく、環境問題について考える場としてワークショップを開催しています。これらの活動の様子をカメラで記録に残すことは、活動を続けていく上で大切なこととなります。今後の活動がよりよい活動となるよう続けていけたらと思います。

本活動以外にも、我々ボランティア部では他の清掃活動や献血活動、フリーマーケットなどの活動にも取り組んでいます。これらの活動でもご支援いただいた品を活用していきます。

最後になりますが、これからも皆様のご支援への感謝を忘れることなく活動を続けていきたいと思ひます。今後ともボランティア部を何卒よろしくお願ひ致します。



模型部

環境・生命工学課程 4年 佐藤 圭悟

顧問教員: 情報・知能工学科 准教授 菅谷 保之

部員数: 22名 (学部 14名, 大学院 8名)

この度は模型部にご支援をして頂き、誠にありがとうございます。部員一同、心より感謝申し上げます。2010年に発足した我々模型部ですが、おかげさまで6年目を迎えることができました。部員数も増え、現在は22名で活動しております。毎週2回の活動に加え、テーマを決めて作品を作る部内コンペやワンダーフェスティバルなどのイベントへの参加、ブログでの情報発信や交流なども行っております。特にコンペや技科大祭での作品展示などは部員数が増加したことで、より活発さを増してきております。

今回のご支援により購入させて頂いたプラモデルは、技科大祭で開催した子ども向けの模型製作体験教室にて使用させて頂きました。この体験教室は部発足直後から開催しておりますが、今年も用意したプラモデルは全て子ども達に作ってもらい、数が足りなくなるほど多くの親子連れに来て頂き、大変ご好評を頂きました。また、プラモデルだけでなく記念写真を撮り、その写真をプレゼントすることで、喜んでもらえたかと思えます。この体験教室を通して、子ども達にプラモデルを楽しんでもらうと同時に、「モノづくりの楽しさ」について知ってもらおうキッカケになればと思っております。

模型部はまだまだ若いサークルではありますが、これからも部員全員が一丸となって活動していきますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



建築サークルTYACC

建築・都市システム学専攻 1年 大野 洋輔

顧問教員: 建築・都市システム学系 教授 松島 史朗

部員数: 学部 29名, 大学院 11名

この度は、豊橋技術科学大学建築サークル TYACCにご支援をいただき、誠にありがとうございます。部員一同、心からお礼申し上げます。

私は部長を務めております、建築・都市システム学専攻 1年生の大野洋輔と申します。今年度も多くの新入生が入部し、現在は学部生 29名、大学院生 11名、総勢 40名が在籍しており、顧問の建築・都市システム学系 松島史朗教授の元、活動しております。

この度、援助頂いた課外活動活性化経費は、私たちが現在活動しているプロジェクト、特に愛知県新城市にある黒谷家という古民家の再生プロジェクトのための模型材料や塗料といった物品の購入に使用いたしました。

援助していただいた物品を用いて、黒谷家の老朽化・腐朽化の進んだ塀の更新のため、デザインの決定や、加工段階における部材の塗装・防腐処理を行うことができました。これらの活動は、実際の木材の加工や、地域の人との交流など、学内では難しい学びの機会となりました。

こうした実践的な活動が可能となったのも皆様のご助力あってのことと、重ねてお礼申し上げます。今後とも、情報発信を行い、活動を継続していきますので、ご支援の程よろしく願いいたします。



ダンスサークル

建築・都市システム学専攻 修士 1年 小菅 真之介
顧問教員：国際交流センター 准教授 ライアン・ユージン
部員数：学部 17名, 大学院 8名

この度は私たちダンスサークルに、課外活動活性化経費よりご支援していただき誠にありがとうございます。部員を代表いたしまして心より御礼申し上げます。購入して頂いたスピーカーによって、日々の練習から活気があふれ、非常に良い雰囲気ですと実感しております。8月には本学のオープンキャンパスでもパフォーマンスさせていただき、屋外でもパワフルな音源を確保できるようになりました。

現在ダンスサークルは、学部17名、大学院8名の合計25名で活動しています。部活として認定されてからは今年で3年目となり、結成当時の人数に比べると倍以上の仲間が集まって大きな団体となりました。豊橋技術科学大学の名前を背負ってダンスの大会に出場したり、地域のイベントに参加したりと、年々その活動の幅は広がってきていると感じています。顧問のライアン・ユージン先生（国際交流センター 准教授）にもイベントのお話を頂き、去年に引き続き9月に田原で開催されたUMINARI 祭りにて共演させていただきました。去年から今年にかけて個人でのダンスイベントへの参加も精力的に行うようになり、練習の環境が改善されたことが部員の活力の源となっていることは間違いありません。これからも大学を盛り上げることと共に、様々なイベントで活躍できるよう部員一同練習に励みたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



ジャグリングサークル

情報・知能工学課程 4年 加藤 凱生
顧問教員：国際交流センター 准教授 村松 由起子
部員数：学部 42名, 大学院 10名

この度は、ジャグリングサークル「じゃぐだらりん」(以下：じゃぐだらりん) に活性化経費を給付していただきまして、誠にありがとうございます。

じゃぐだらりんは結成して間もないサークルではございますが、少しずつ学内や豊橋市内外の方々に認知していただけるようになってきました。それに伴い、当サークルへのパフォーマンスやジャグリング体験の依頼も増加し、その際に活性化経費によって購入した道具を用いることにより、多くの方にジャグリングの楽しさを知っていただけたと思います。年齢や性別に関わらず楽しんでもらう事ができ、嬉しく思っております。

また、今年度は保育園でのお楽しみ会として演技とバルーンアートの体験を行ったのですが、活性化経費によって購入した様々な道具を用いることにより、小さな子どもたちでも最後まで楽しんでもらうことが出来ました。

今後も様々な場でのパフォーマンスを通して地域交流や国際交流を行い、より多くの人とジャグリングの楽しさを共有したいと考えております。

改めまして、今回は活性化経費を給付していただき誠にありがとうございました。



技科大祭実行委員会

電気・電子情報工学系 学年 B3 安永 弘樹

顧問教員：情報・知能工学系 教授 三浦 純

部員数：学部 28名

この度は、私たち技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費のご支援をいただき、誠にありがとうございます。技科大祭実行委員会一同、心よりお礼申し上げます。今回、同窓会の皆様にご支援いただいた資金は、技科大祭で使用されるバックパネルの製作材料の購入資金として使わせていただきました。このバックパネルは、開催中ステージバックに飾られるもので、毎年、全学生に対しデザインの募集を行い、選ばれたデザインを基に実行委員会のメンバーが製作します。このバックパネルは、その年の技科大祭の色を表し、文字通り技科大祭の「顔」となってくれる重要なものです。

今年の技科大祭のテーマは「Carnival」でした。このテーマには、「陽気なお祭り騒ぎ」という意味があり、みんなが陽気にお祭り騒ぎをしたいという思いが込められています。ゲストにはお笑い芸人をお迎えし、さらに模擬店などの数も増やし、例年よりも規模の大きい技科大祭を実現しました。それらの成果もあってか、今年度の技科大祭では二日間合わせて2000人近くのお客様にご来場いただきました。

最後に、同窓会の皆様のご支援、ご協力により、今年も無事に技科大祭を執り行えましたこと、重ねてお礼申し上げます。



【同窓生への支援事業報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

■ 高木宏幸先生 准教授就任 祝賀会 ■

平成23年度 修了 後藤 太一

今年度本学の卒業生の高木宏幸講師が、電気・電子情報工学系 准教授に就任されました。これを祝して、祝賀会を4月4日に開催致しました。高木先生に指導頂いた元学生の方々、同期・先輩の方々、研究室の先生方、指導中の学生など、多くの方々に、遠方よりお集まりいただき、お陰様で大変楽しい時間となりました。これもひとえに高木先生と皆さまのお人柄によるものだと思います。



高木先生からも温かい感謝のお言葉を頂戴致しました。今後も是非機会をみては集まり、皆さまとの親交を深めさせていただけますと幸いです。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年4月4日

開催場所 ▶ ノスタルジア

出席者数 ▶ 27名(内本学卒業・修了生11名)



■ 材料機能制御研究室 足立望君 ポスドク就任 祝賀会 ■

平成13年度 修了 戸高 義一

今年度、本学の博士後期課程を修了された足立望君が、機械工学系 材料機能制御研究室のポスドクとして就任されました。これを祝して、祝賀会を4月11日に開催致しました。足立君と同時期を材料機能制御研究室にて過ごした卒業生をはじめとして、多くの方々に遠方よりご参集頂きました。ご支援のお陰をもちまして、研究室の卒業生同士の懇談は勿論ですが、現在在籍している学生と卒業生との良



い話らいの場ともなりました。ありがとうございました。

今後も材料機能制御研究室に関わる皆様の懇談できる場を設けて、互いの親交を深めていきたいと考えております。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年4月11日

開催場所 ▶ 高師緑地公園

出席者数 ▶ 29名(内本学卒業・修了生11名)



森研究室同窓会

平成 16年度 修了 前野 智美

平成 27 年 6 月 20 日に極限成形システム研究室（旧塑性加工研究室）同窓会を行いました。教授の森謙一郎教授の



もと卒業生 56 名、在學生 5 名が集まりました。森先生より研究室の近況報告がありました。卒業生同士や在學生との間で近況や就職に関連する話題などで盛り上がりました。

研究室では同窓会のほかにも研究グループ毎の同窓会が行われています。開催の際には参加をよろしくお願いいたします。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年6月20日

開催場所 ▶ ALOHA TABLE

出席者数 ▶ 61名(内本学卒業・修了生57名)

雲雀会（トヨタ自動車勤務 同窓会）

平成 2年度 修了 志水 安起良

トヨタ自動車株式会社に勤務する卒業生の年1回の会合。2010年より開催しており、今回は第6回目の開催。本



年度は、過去最高の45名が参加しており、1982年修了の大先輩から今年の新入社員（まだ2ヶ月）まで幅広い年次のメンバーに参加いただき、大盛況で幕を閉じました。

次回の第7回も、来年の5月中（新入社員が研修で豊田を離れてしまう前）に開催する予定で、より多くの方に参加いただけることを期待しております。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年5月27日

開催場所 ▶ 名鉄トヨタホテル

出席者数 ▶ 45名(内本学卒業・修了生45名)

斉藤さん壮行会

平成 23年度 修了 本田 祐介

研究室の同期の一人が8月よりアメリカへ出向することになり、壮行会を行いました。急な呼びかけにも関わらず同期全員集まって頂いたことに感謝です。（遠くは九州から来て頂きました!）

次回は同期が帰ってきた時に集まりましょう!



開催概要

実施日 ▶ 平成27年7月4日

開催場所 ▶ なかむら屋 本店

出席者数 ▶ 12名(内本学卒業・修了生10名)



第11回 システム制御研究室 (旧 工程制御研究室) 同窓会

平成 22年度 修了 田崎 良佑

3年毎に実施しているシステム制御研究室(旧工程制御研究室)同窓会も11回目となりました。今回の第11回同窓会は過去最高の出席者数であり、第一部には特別講演会として第一期生:伊藤一寿様より「私の履歴書」と題してのご講演を承り、OBの方々・現役学生を激励するお話をいただきました。第二部の交流会では、お酒を酌み交わしながら旧友との思い出話に花を咲かせている様子でした。

また、次回第12回同窓会は、寺嶋先生のご退官されるタイミングでの実施を予定しております。今回の参加人数

を上回る盛会とし、寺嶋先生の退官を惜しみつつ華やかに実行できるように、準備させていただく所存です。同窓生の方々のご参加をお待ちしております。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年9月12日

開催場所 ▶ ホテルアソシア豊橋

出席者数 ▶ 69名(内本学卒業・修了生69名)



2015年豊橋技術科学大学海岸工学研究室OB会

平成 25年度 修了 高岡 翔

建築・都市システム学系(旧建設工学系)海岸工学研究室では毎年夏に同窓会を開催しています。スタートからおよそ10年が経ちますが、毎年15名程の卒修了生に参加いただき、交流活動が続いています。今年は10月3日(土)にこすたりかシティガーデンにて開催しました。加藤茂先生が本学教授に昇任されたお祝い会も兼ねており、20名のOB・OGの方々にご参加いただきました。毎年OB会を開催している研究室は本学でも珍しく、在校生にとって

も先輩と交流を深めるよい機会となっております。

次回は平成28年夏~秋に開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年10月3日

開催場所 ▶ こすたりかシティガーデン

出席者数 ▶ 33名(内本学卒業・修了生19名)



自動車研究部 全日本学生フォーミュラ大会参戦10周年記念式典

平成 21年度 修了 茅野 浩之

豊橋技術科学大学自動車研究部の全日本学生フォーミュラ大会参戦10周年を記念して10周年記念式典、および現役部員による2015年度の活動報告会が行われました。当日は、OB/OGと現役部員を交え過去10回の大会参戦を振り返ったパネルディスカッションや、2015年9月に開催された第13回全日本学生フォーミュラ大会参戦車両TG10の展示、現役部員による2015年度の活動コンセプトや開発背景、大会での順位などの報告がありました。輸送用機器業界、機械業界に進んだOB/OGも多く、当

日は昔話で盛り上がるだけではなく、技術交流会という一面もあったようです。

今後も定期的にこのような会を設け、OB/OG/現役学生間の交流の場としていきます。

自動車研究部 web サイト <http://tut-f.com/>

開催概要

実施日 ▶ 平成27年10月17日

開催場所 ▶ ロワジュールホテル豊橋

出席者数 ▶ 20名 (内本学卒業・修了生20名)



第二回大門研究室OB・OG会

平成 21年度 修了 蒲原 弘継

2008年に開設された大門研究室から、これまでに20名の学生が卒業・修了していきました。昨年の第一回に引き続き、今年も大門研究室OB・OG会を開催しました。今回は、研究室開設時から所属されている特任助教の結婚祝賀会も兼ねていた事もあり、OB・OGのみならず大勢の研究室関係者が参加し、皆で当時は懐かしむ様子などが伺えました。

今後は二年ごとの開催を予定しております。本会の連

絡は、メールの送信や大門研究室ホームページへの掲載、暑中見舞いの送付を通して、ご連絡させて頂いておりますので、知人への周知や住所変更の連絡などにご協力をお願いいたします。

開催概要

実施日 ▶ 平成27年11月21日

開催場所 ▶ Bar&Dining sempo cafe

出席者数 ▶ 35名 (内本学卒業・修了生11名)



(株)ブライダルは
豊橋技術科学大学同窓会の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

37年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に豊橋技術科学大学同窓会の皆様には平成17年より「豊橋技術科学大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この広告を見たとおっしゃってくだされば、会員の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

豊橋技術科学大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>

<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



37年の実績

株式会社 **ブライダル**

Network / 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-7-13 コスモ栄ビル9F
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
大阪支社 〒530-0001 大阪府北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F